

平成 21 年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成 21 年 10 月

栃 木 県

目 次

調査の概要	1
調査の結果	2
1 暮らしの変化について	2
(1) 暮らしの変化	2
(1-1) 暮らしが悪くなった理由	3
(2) 暮らしの満足度	4
(3) 今後の暮らしの状況	5
(4) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2 県政への要望について	7
(1) 県政への要望	7
3 豊かさについて	9
(1) 「豊かさ」のイメージ	9
(2) 「豊かさ」の実現のために力を入れること	10
4 新たな時代への対応について	11
(1) 社会情勢の変化や対策について関心のあるもの	11
5 栃木県の将来像について	12
(1) 活力に満ちた郷土実感のために必要なこと	12
6 地域防災について	13
(1) 最も不安に思う災害	13
(2) 災害に対する備え	14
(3) 防災行事への参加状況	15
(4) 自主防災組織の認知と意識	16
(5) 指定避難場所の認知度	17
(6) 有効な緊急時の情報伝達手段	18
7 県民の人権意識について	19
(1) 基本的人権の尊重	19
(2) 人権侵害の状況	20
(3) 人権侵害の被害経験	21
(4) 人権侵害の被害への対処	22
(5) 人権侵害の加害経験	23

8	食の安全・安心について	24
	(1) 食品の安全性についての不安	24
	(1-1) 感じている食品安全性の不安	25
	(2) 食品購入時に気を付けること	26
	(3) 食品の安全性に関する知識や情報の入手	27
	(3-1) 食品の安全性に関する知識や情報の入手先	28
	(4) 食品の安全性で情報提供が必要なメディア	29
9	食料・農業・農村について	30
	(1) 農産物を選ぶ際に意識していること	30
	(2) 将来の食料事情についての不安	31
	(3) 輸入農産物に対する意識	32
	(4) 国内農業の生産活動に期待すること	33
	(5) 農村の重要な役割	34
10	地域警察活動に対する県民の意識について	35
	(1) 交番等の警察官に特に力を入れてほしい活動	35
11	総合的な交通安全対策の推進について	36
	(1) 交通事故防止のために進めるべき交通取締り	36
	(2) 事故防止に役立っていると感じる施策	37
	(3) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策	38
12	犯罪と治安対策について	39
	(1) 県内の治安状況	39
	(2) 不安を感じる犯罪	40
	(3) 振り込め詐欺の被害防止についての心掛け	41

調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について*
 - (2) 県政への要望について*
 - (3) 豊かさについて
 - (4) 新たな時代への対応について
 - (5) 栃木県の将来像について
 - (6) 地域防災について
 - (7) 県民の人権意識について
 - (8) 食の安全・安心について
 - (9) 食料・農業・農村について
 - (10) 地域警察活動に対する県民の意識について
 - (11) 総合的な交通安全対策の推進について
 - (12) 犯罪と治安対策について
- (* 印は時系列調査)

3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満 20 歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法 (郵送配布 - 郵送回収)
- (6) 調査時期 平成 21 年 5 月 18 日 ~ 6 月 9 日

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数 (率) 1,411 (70.6%)

6 報告書の見方

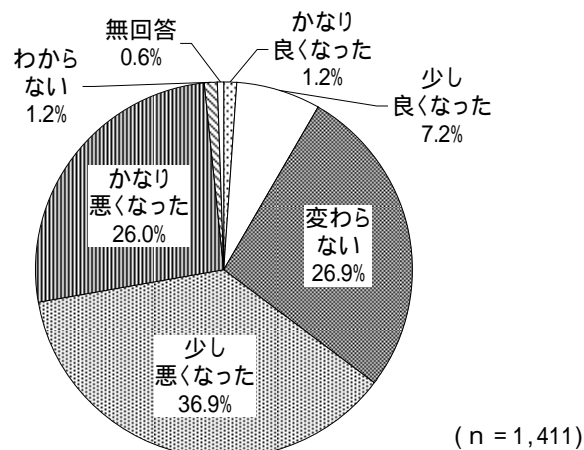
- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が 100.0% にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数は n として掲載した。その比率は件数を 100% として算出した。
- (3) 1 人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が 100% を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の n の合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、n が小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。

調査の結果

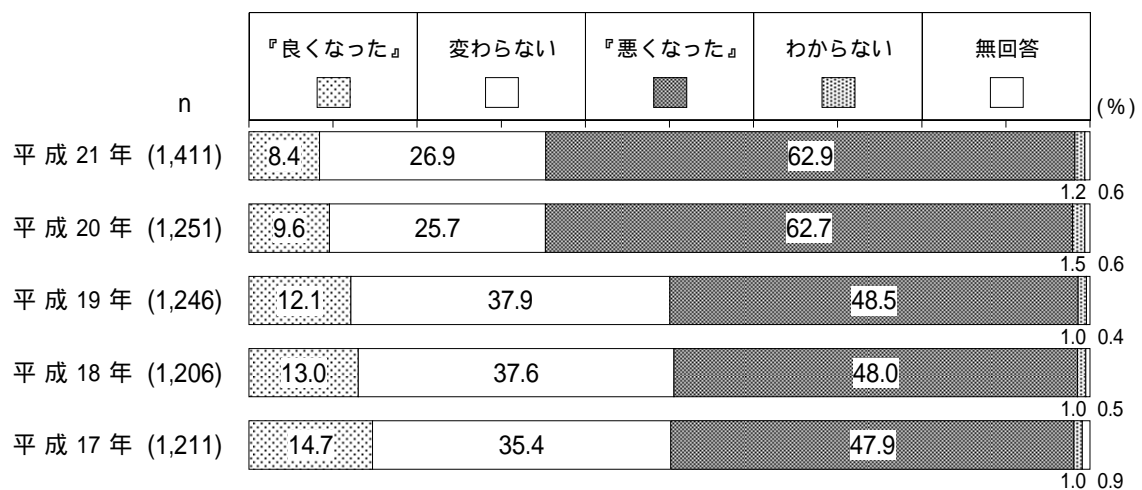
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「かなり良くなった」(1.2%)と「少し良くなった」(7.2%)の2つを合わせた『良くなった』(8.4%)は1割未満となっている。一方、「少し悪くなった」(36.9%)と「かなり悪くなった」(26.0%)の2つを合わせた『悪くなった』(62.9%)は6割を超えている。
- ・ 性/年齢別で見ると、『良くなった』では男性は低い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、また 女性20歳代 が22.6%と他の年代と比べて最も高くなっている。一方、『悪くなった』では 女性50歳代 が76.1%と最も高くなっている。

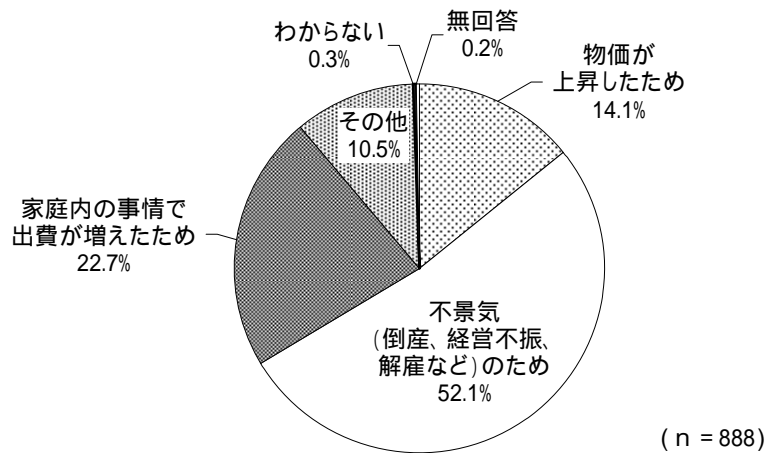


- ・ 過去の調査結果と比較すると、『良くなった』は平成17年から減少傾向となっている。

(1 - 1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で「少し悪くなった」「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

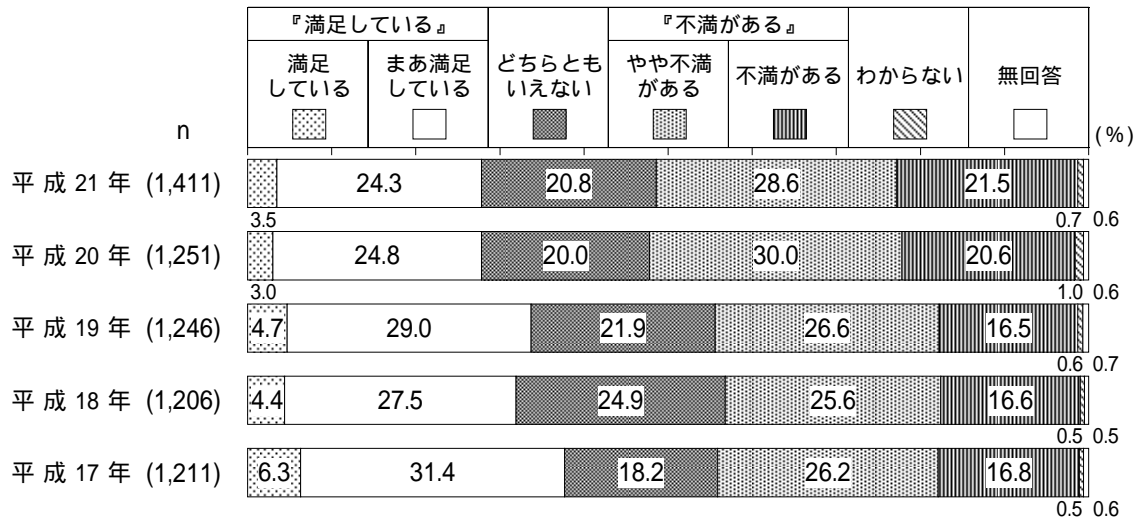
問1 - 1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな原因を1つ選んでください。 [n = 888]



- ・ 全体で見ると、「不景気 (倒産、経営不振、解雇など)のため」(52.1%)が5割を超え最も高く、次いで「家庭内の事情で出費が増えたため」(22.7%)、「物価が上昇したため」(14.1%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「不景気 (倒産、経営不振、解雇など)のため」では 男性 (58.8%)が 女性 (46.4%)より12.4ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では 女性70歳以上 が29.8%、「不景気 (倒産、経営不振、解雇など)のため」では 男性60~64歳 が74.5%、「家庭内の事情で出費が増えたため」では 女性40歳代 が42.3%とそれぞれ他の年代と比べて最も高くなっている。

(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]

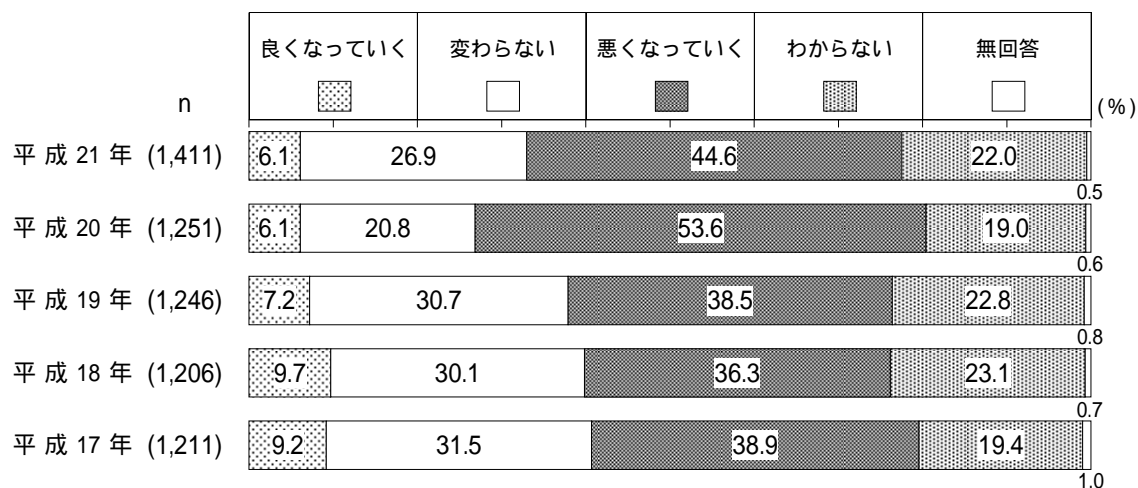


「まあ満足している」は、平成 17 年では「ある程度満足している」

- ・ 全体で見ると、「満足している」(3.5%)と「まあ満足している」(24.3%)の2つを合わせた『満足している』(27.8%)は3割近くとなっている。一方、「やや不満がある」(28.6%)と「不満がある」(21.5%)の2つを合わせた『不満がある』(50.1%)は5割となっている。
- ・ 性別で見ると、『不満がある』では 男性 (57.1%)が 女性 (44.6%)より12.5ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、『満足している』では 女性70歳以上 が43.5%と他の年代と比べて最も高く、『不満がある』では 女性50歳代 が62.6%と最も高くなっている。
- ・ 過去の調査結果と比較すると、前回(平成20年)とほぼ同じ傾向となっている。

(3) 今後の暮らしの状況

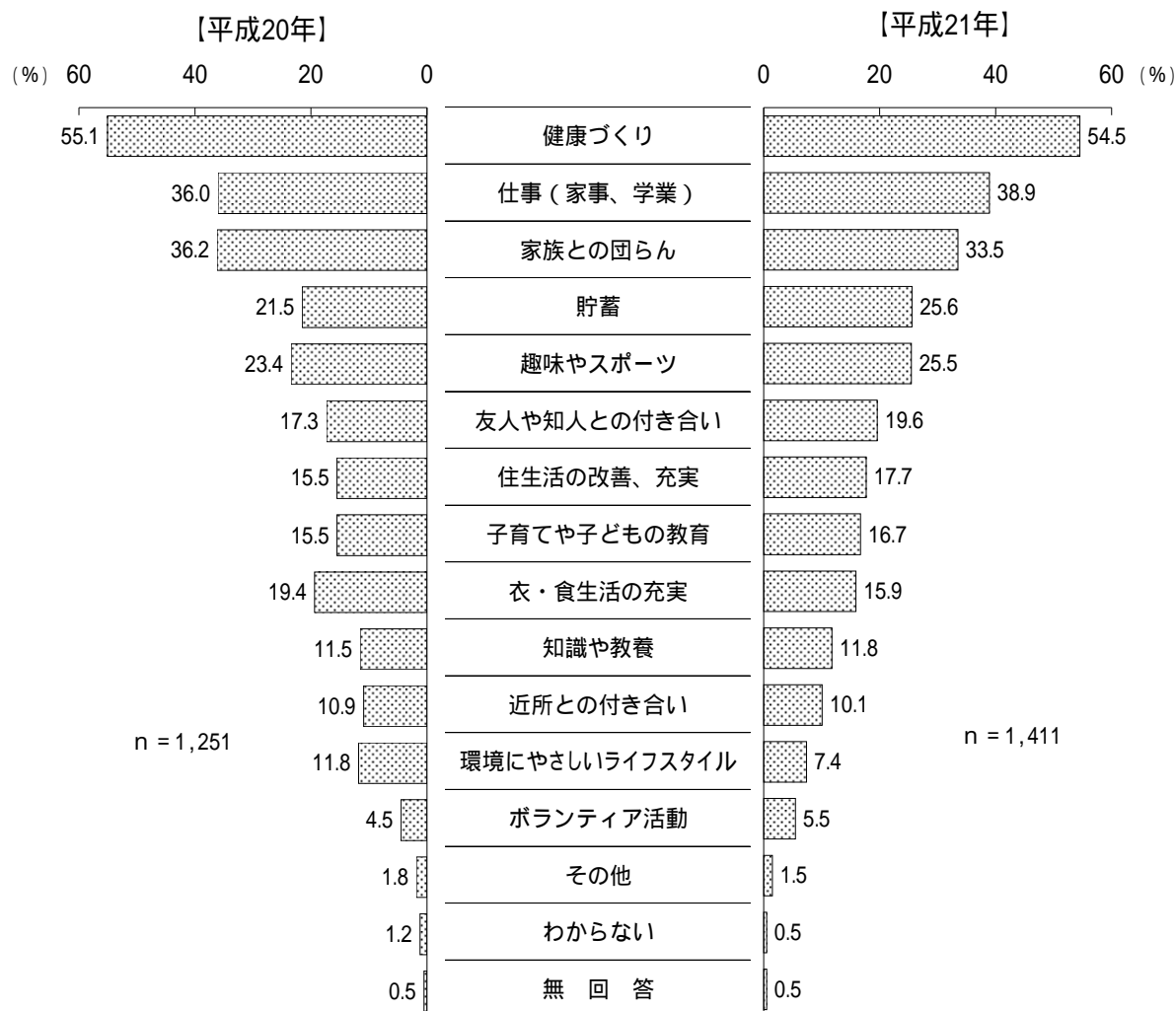
問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「良くなっていく」(6.1%)は1割に満たない。一方、「悪くなっていく」(44.6%)は4割半ばとなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では男女とも低い年代ほど割合が比較的高い傾向となっている。一方、「悪くなっていく」では 男性50歳代 (61.0%)のみが6割を超え他の年代と比べて最も高くなっている。
- ・ 過去の調査結果と比較すると、前回(平成20年)よりも「悪くなっていく」が9ポイント減少している。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いませんか。
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,411]

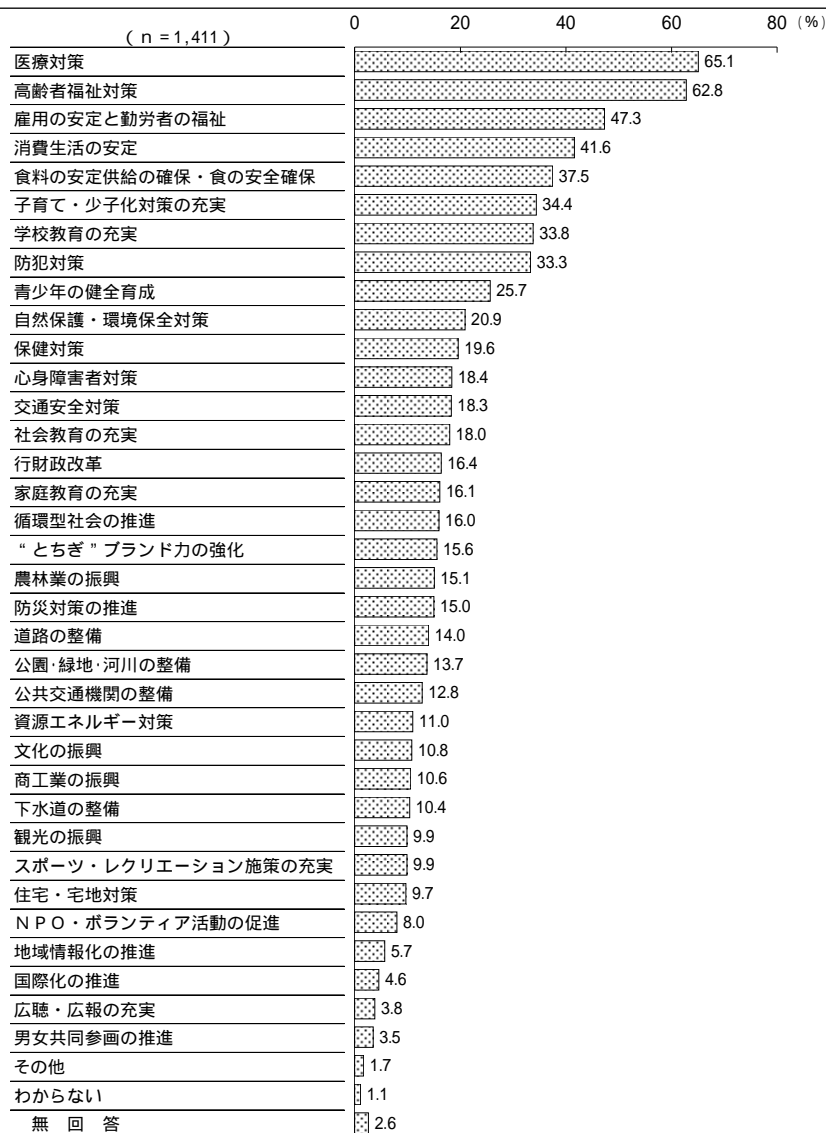


- ・ 全体で見ると、「健康づくり」(54.5%)が5割半ばと最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(38.9%)、「家族との団らん」(33.5%)、「貯蓄」(25.6%)、「趣味やスポーツ」(25.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「趣味やスポーツ」では男性(34.5%)が女性(17.7%)より16.8ポイント高く、男女間の差が最も大きい。
- ・ 性/年齢別で見ると、「健康づくり」では男性は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性65~69歳(81.4%)、女性60~64歳(80.7%)、男性70歳以上(80.6%)が8割以上と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では男性20歳代と男性40歳代がともに67.3%と他の年代と比べて最も高くなっている。「貯蓄」では女性は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20歳代が48.4%、「趣味やスポーツ」では男性60~64歳(46.8%)と男性20歳代(46.2%)がともに4割半ばと他の年代と比べて高くなっている。
- ・ 前回(平成20年)の調査結果と比較すると、「貯蓄」が4.1ポイント増加している。一方、「環境にやさしいライフスタイル」が4.4ポイント減少している。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”づくり」をめざしていろいろな仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。
[n = 1,411]



- ・ 全体でみると、「医療対策」(65.1%)と「高齢者福祉対策」(62.8%)の2項目が6割以上と特に高く、次いで「雇用の安定と勤労者の福祉」(47.3%)、「消費生活の安定」(41.6%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(37.5%)、「子育て・少子化対策の充実」(34.4%)、「学校教育の充実」(33.8%)、「防犯対策」(33.3%)の順となっている。
- ・ 性別でみると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では女性(42.0%)が男性(31.2%)より10.8ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別でみると、「高齢者福祉対策」では男性は高い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、また女性60～64歳が86.0%と最も高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では女性50歳代が64.4%、「消費生活の安定」では女性65～69歳が58.8%と他の年代と比べて最も高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では女性50歳代(52.8%)、女性60～64歳(50.9%)、女性65～69歳(50.5%)が5割以上、「子育て・少子化対策の充実」では女性30歳代(62.3%)と男性30歳代(57.0%)が6割前後、「学校教育の充実」では女性40歳代が56.1%とそれぞれ他の年代と比べて高くなっている。

(上位5項目)

順位 年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
平成21年	医療対策 65.1%	高齢者福祉対策 62.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 47.3%	消費生活の安定 41.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.5%
平成20年	高齢者福祉対策 62.9%	医療対策 60.7%	消費生活の安定 44.3%	食料の安定供給の確保 41.6%	防犯対策 39.2%
平成19年	高齢者福祉対策 62.6%	医療対策 57.6%	防犯対策 36.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.8%	学校教育の充実 35.6%
平成18年	高齢者福祉対策 55.2%	医療対策 51.4%	防犯対策 40.3%	子育て・少子化対策の充実 37.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.8%
平成17年	高齢者福祉対策 56.3%	医療対策 51.0%	防犯対策 43.6%	青少年の健全育成 37.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.6%
平成16年	高齢者福祉対策 55.1%	医療対策 45.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.7%	防犯対策 35.9%	青少年の健全育成 34.3%
平成15年	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 46.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.5%	青少年の健全育成 / 防犯対策 34.1%	
平成14年	高齢者福祉対策 57.1%	医療対策 48.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	青少年の健全育成 34.5%	廃棄物の処理対策 32.7%
平成13年	高齢者福祉対策 51.7%	青少年の健全育成 43.6%	廃棄物の処理対策 42.0%	医療対策 39.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.2%
平成12年	老人福祉対策 41.5%	青少年の健全育成 39.3%	廃棄物の処理対策 34.1%	学校教育の充実 34.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.3%
平成11年	老人福祉対策 46.5%	廃棄物の処理対策 42.8%	医療対策 39.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.1%	青少年の健全育成 35.5%
平成10年	老人福祉対策 47.3%	医療対策 39.2%	物価対策 34.2%	廃棄物の処理対策 33.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 29.5%
平成9年	老人福祉対策 48.2%	医療対策 41.0%	廃棄物の処理対策 30.1%	下水道の整備 26.7%	学校教育の充実 25.0%
平成8年	老人福祉対策 48.1%	医療対策 35.5%	下水道の整備 32.9%	廃棄物の処理対策 29.8%	道路の整備 23.8%
平成7年	老人福祉対策 46.6%	廃棄物の処理対策 34.9%	医療対策 33.3%	下水道の整備 30.1%	物価対策 28.8%

平成12年まで「高齢者福祉対策」は「老人福祉対策」

平成12年まで「消費生活の安定」は「消費者保護対策」

平成20年まで「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は「食料の安定供給の確保」であり、

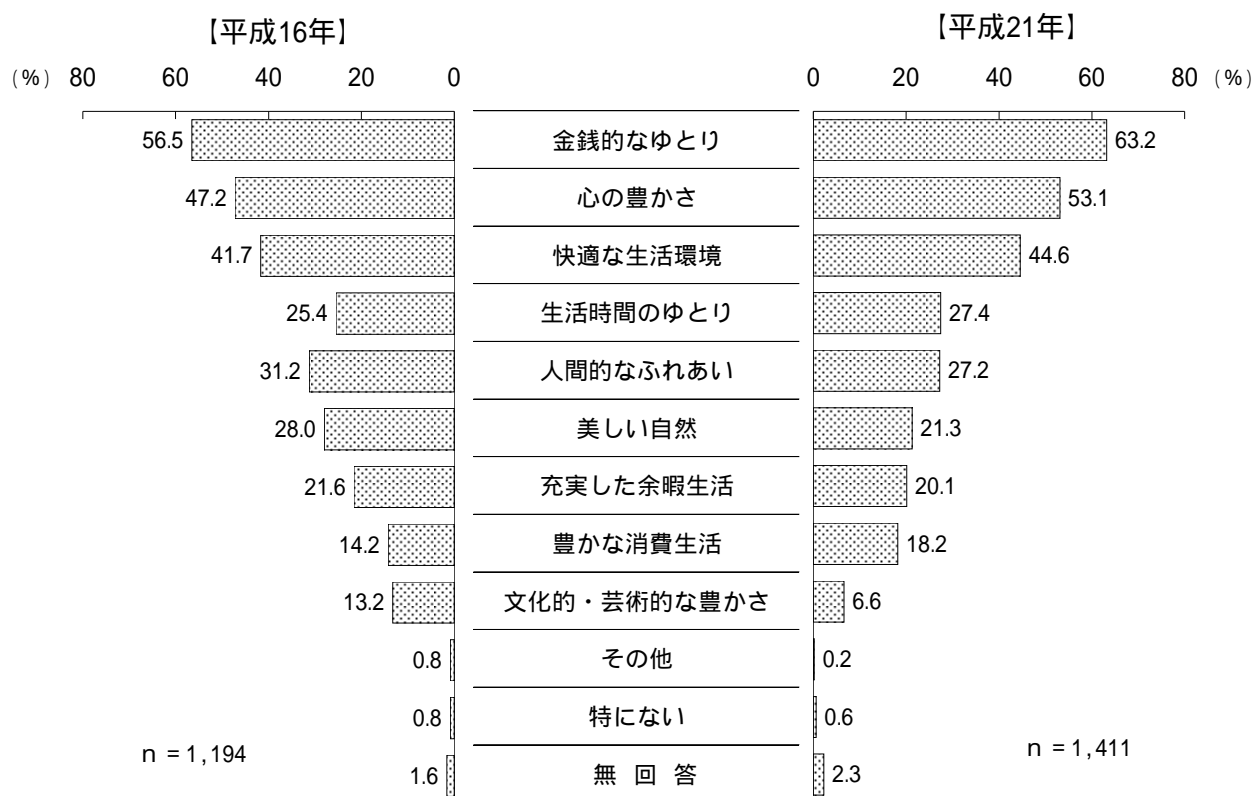
平成13年より加わった選択肢である。

- ・ 上位5項目を過去の調査結果と比較すると、平成14年から昨年まで2位であった「医療対策」が昭和61年以来初めて1位となり、「老人福祉対策」を含めると平成2年から19年連続1位であった「高齢者福祉対策」が2位となっている。また、「消費生活の安定」が4位、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が5位に下がり、代わって「雇用の安定と勤労者の福祉」が平成16年以来5年ぶりに3位となっている。

3 豊かさについて

(1) 「豊かさ」のイメージ

問6 あなたは、「豊かさ」という言葉から、どのようなことをイメージしますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,411]

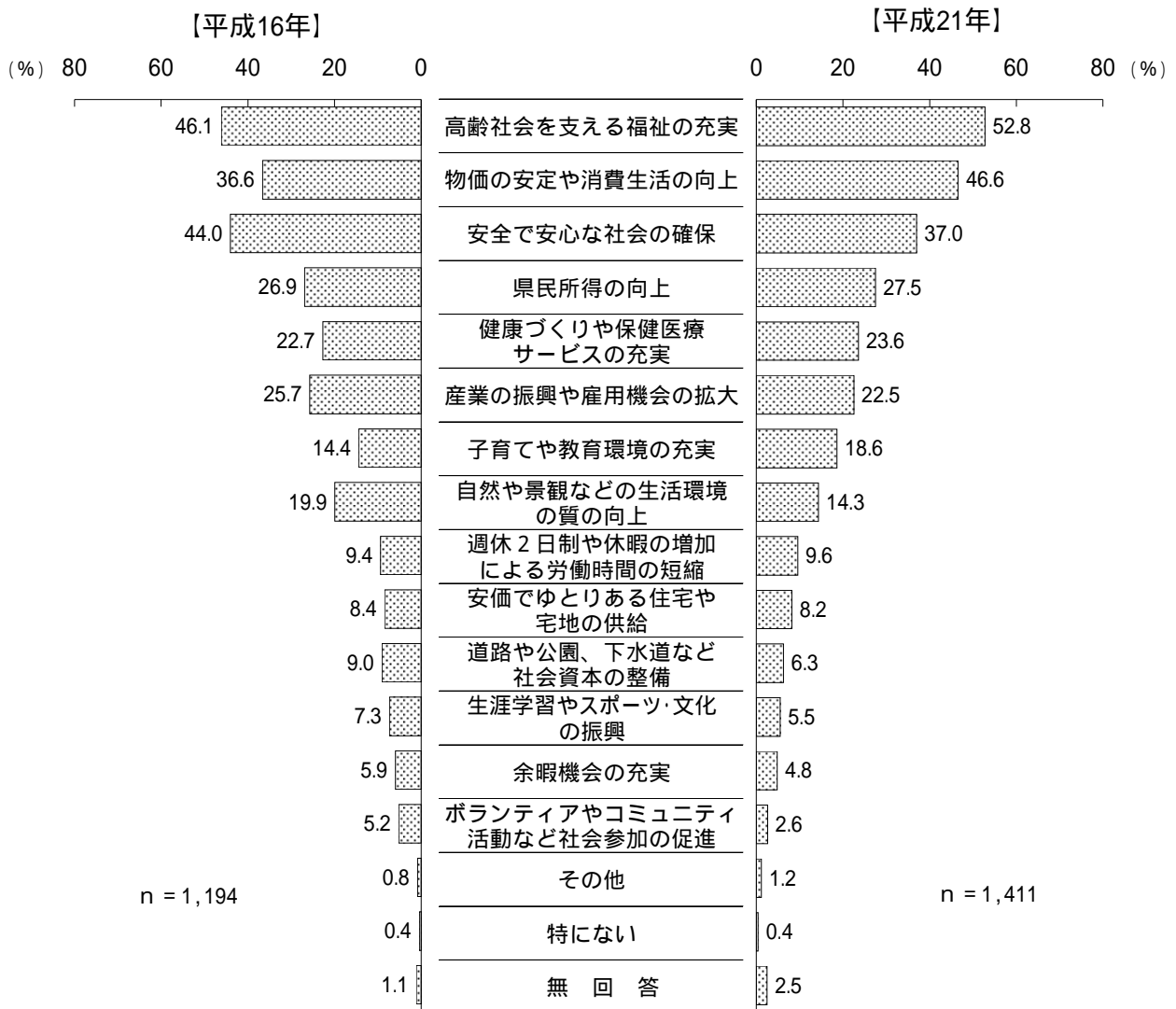


- ・ 全体で見ると、「金銭的なゆとり」(63.2%)が6割を超え最も高く、次いで「心の豊かさ」(53.1%)、「快適な生活環境」(44.6%)、「生活時間のゆとり」(27.4%)、「人間的なふれあい」(27.2%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「心の豊かさ」では 女性 (59.0%)が 男性 (45.8%)より13.2ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「金銭的なゆとり」では 男性30歳代 が79.4%と最も高く、「心の豊かさ」では 女性30歳代 が71.1%と他の年代と比べて最も高くなっている。「人間的なふれあい」では女性は高い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、女性70歳以上 が46.7%と他の年代と比べて最も高くなっている。
- ・ 前回(平成16年)の調査結果と比較すると、「金銭的なゆとり」が6.7ポイント増加している。一方、「美しい自然」が6.7ポイント減少している。

(2) 「豊かさ」の実現のために力を入れること

問7 あなたは、「豊かさ」を実感できる社会を実現するためには、特にどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n = 1,411]

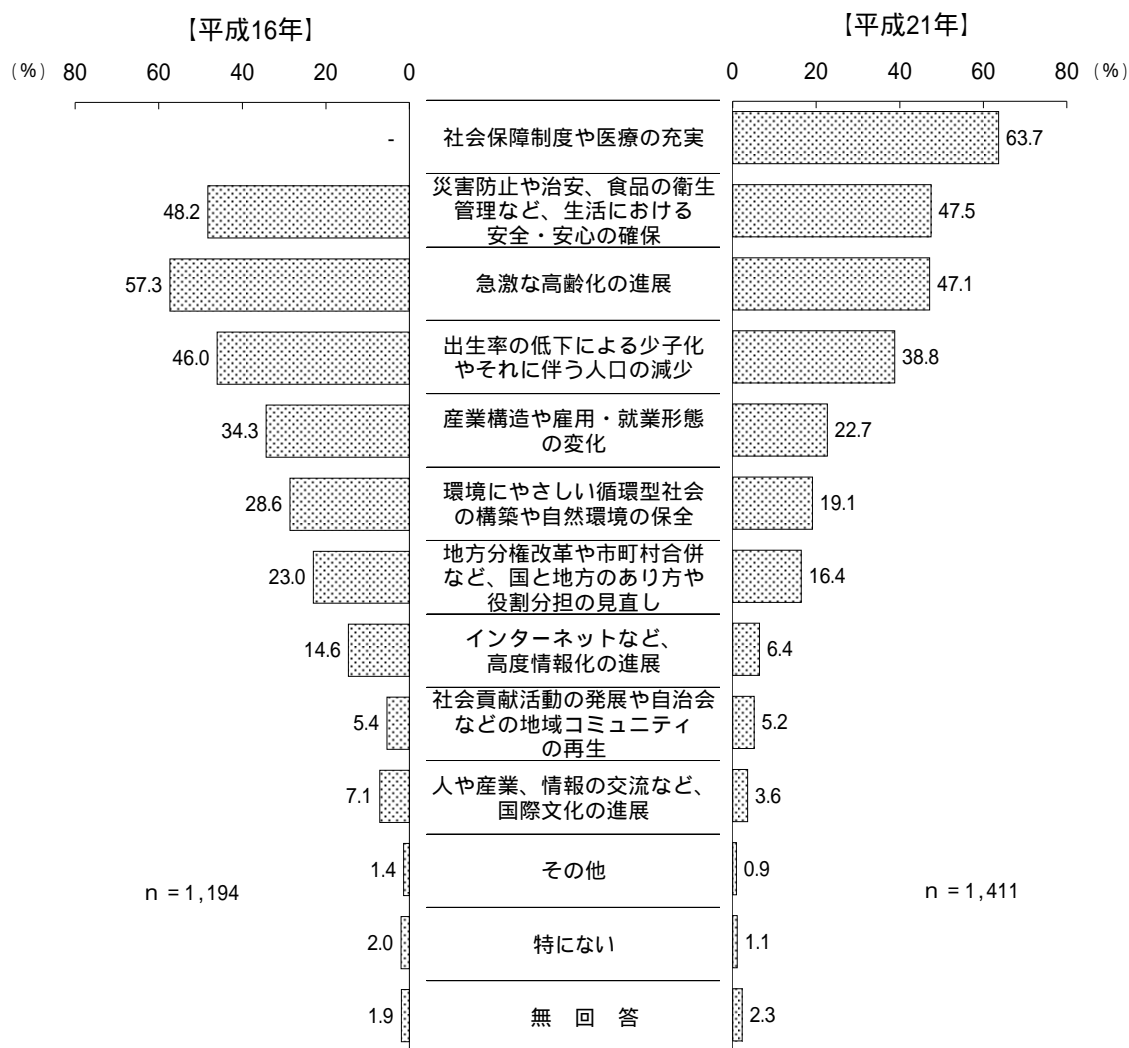


- ・ 全体で見ると、「高齢社会を支える福祉の充実」(52.8%)が5割を超え最も高く、次いで「物価の安定や消費生活の向上」(46.6%)、「安全で安心な社会の確保」(37.0%)、「県民所得の向上」(27.5%)、「健康づくりや保健医療サービスの充実」(23.6%)、「産業の振興や雇用機会の拡大」(22.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「物価の安定や消費生活の向上」では女性(50.9%)が男性(41.2%)より9.7ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「高齢社会を支える福祉の充実」では男女とも高い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、女性65~69歳が74.2%と最も高く、「物価の安定や消費生活の向上」では女性65~69歳が60.8%と他の年代と比べて最も高くなっている。「県民所得の向上」では男性は低い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、男性30歳代(43.0%)と男性20歳代(42.3%)が4割を超えている。また、「健康づくりや保健医療サービスの充実」では女性70歳以上が44.3%と他の年代と比べて最も高くなっている。
- ・ 前回(平成16年)の調査結果と比較すると、「物価の安定や消費生活の向上」が10ポイント増加している。一方、「安全で安心な社会の確保」が7ポイント減少している。

4 新たな時代への対応について

(1) 社会情勢の変化や対策について関心のあるもの

問8 今後の社会情勢の変化やその対策について、あなたは何に関心を持っていますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,411]



平成16年の調査では「社会保障制度や医療の充実」は選択肢に入っていない

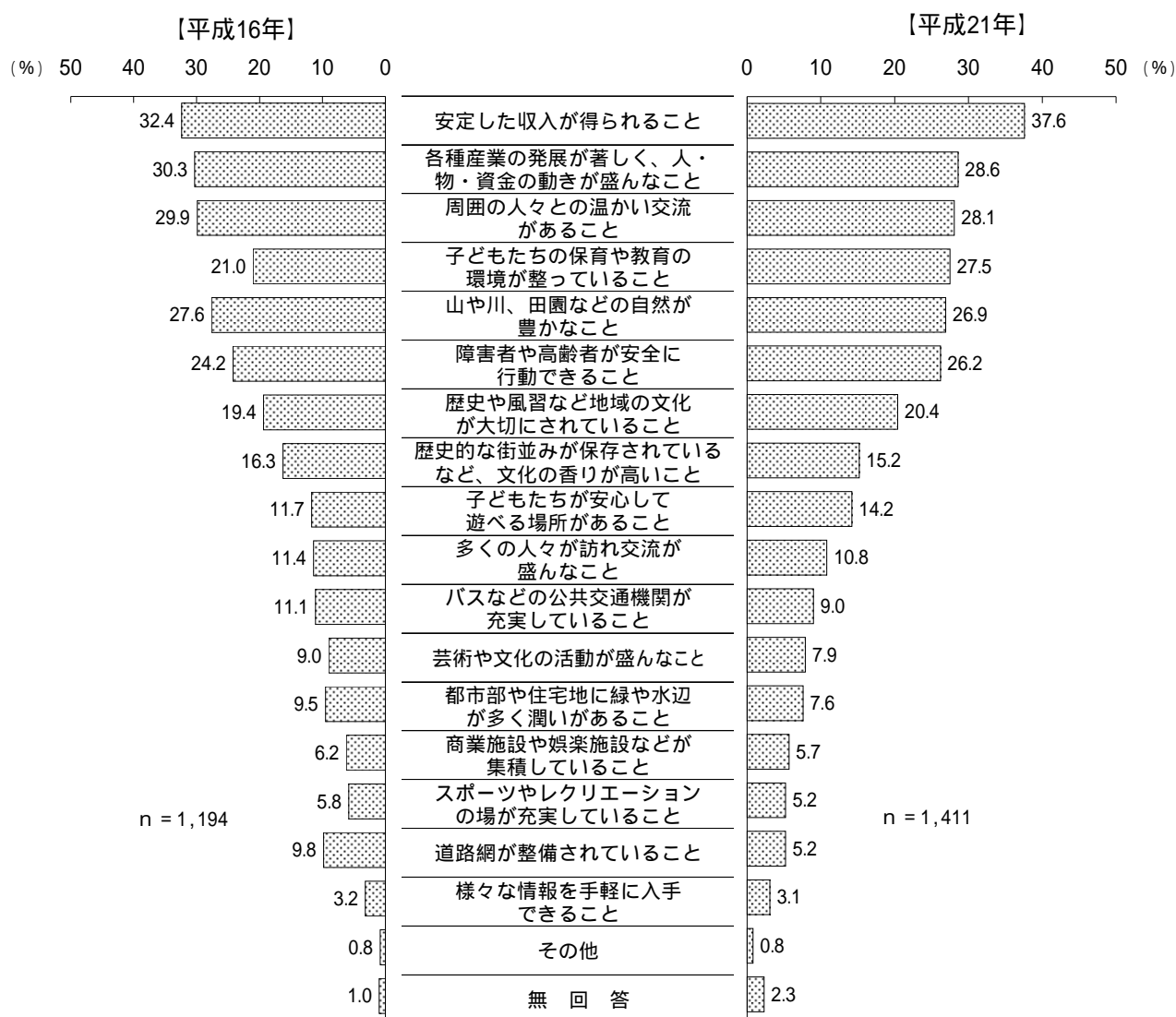
- 全体でみると、「社会保障制度や医療の充実」(63.7%)が6割を超え最も高く、次いで「災害防止や治安、食品の衛生管理など、生活における安全・安心の確保」(47.5%)、「急激な高齢化の進展」(47.1%)、「出生率の低下による少子化やそれに伴う人口の減少」(38.8%)の順となっている。
- 性別でみると、「災害防止や治安、食品の衛生管理など、生活における安全・安心の確保」では女性(53.2%)が男性(40.9%)より12.3ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- 性/年齢別でみると、「出生率の低下による少子化やそれに伴う人口の減少」では男性は高い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、男性70歳以上が60.2%と他の年代と比べて最も高くなっている。一方、「産業構造や雇用・就業形態の変化」では男女ともに低い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、男性20歳代が38.5%と他の年代と比べて最も高くなっている。
- 前回(平成16年)の調査結果と比較すると、「災害防止や治安、食品の衛生管理など、生活における安全・安心の確保」、「急激な高齢化の進展」、「出生率の低下による少子化やそれに伴う人口の減少」が前回と同様に上位を占めている。

5 栃木県の将来像について

(1) 活力に満ちた郷土実感のために必要なこと

問9 あなたは「活力に満ちた郷土“とちぎ”」を実感できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n = 1,411]

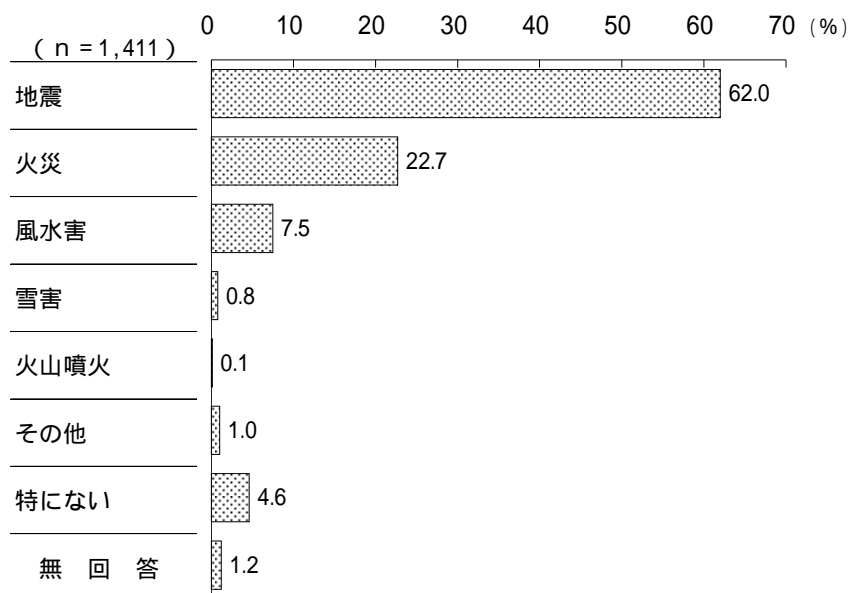


- ・ 全体で見ると、「安定した収入が得られること」(37.6%)が4割近くと最も高く、次いで「各種産業の発展が著しく、人・物・資金の動きが盛んなこと」(28.6%)、「周囲の人々との温かい交流があること」(28.1%)、「子どもたちの保育や教育の環境が整っていること」(27.5%)、「山や川、田園などの自然が豊かなこと」(26.9%)、「障害者や高齢者が安全に行動できること」(26.2%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「周囲の人々との温かい交流があること」では女性(32.0%)が男性(23.5%)より8.5ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「安定した収入が得られること」では女性50歳代が47.9%と最も高くなっている。また、全体と比べて差が最も大きくみられるのは、「周囲の人々との温かい交流があること」の女性70歳以上(47.5%)となっている。
- ・ 前回(平成16年)の調査結果と比較すると、「子どもたちの保育や教育の環境が整っていること」が6.5ポイント、「安定した収入が得られること」が5.2ポイント増加している。一方、「道路網が整備されていること」が4.6ポイント減少している。

6 地域防災について

(1) 最も不安に思う災害

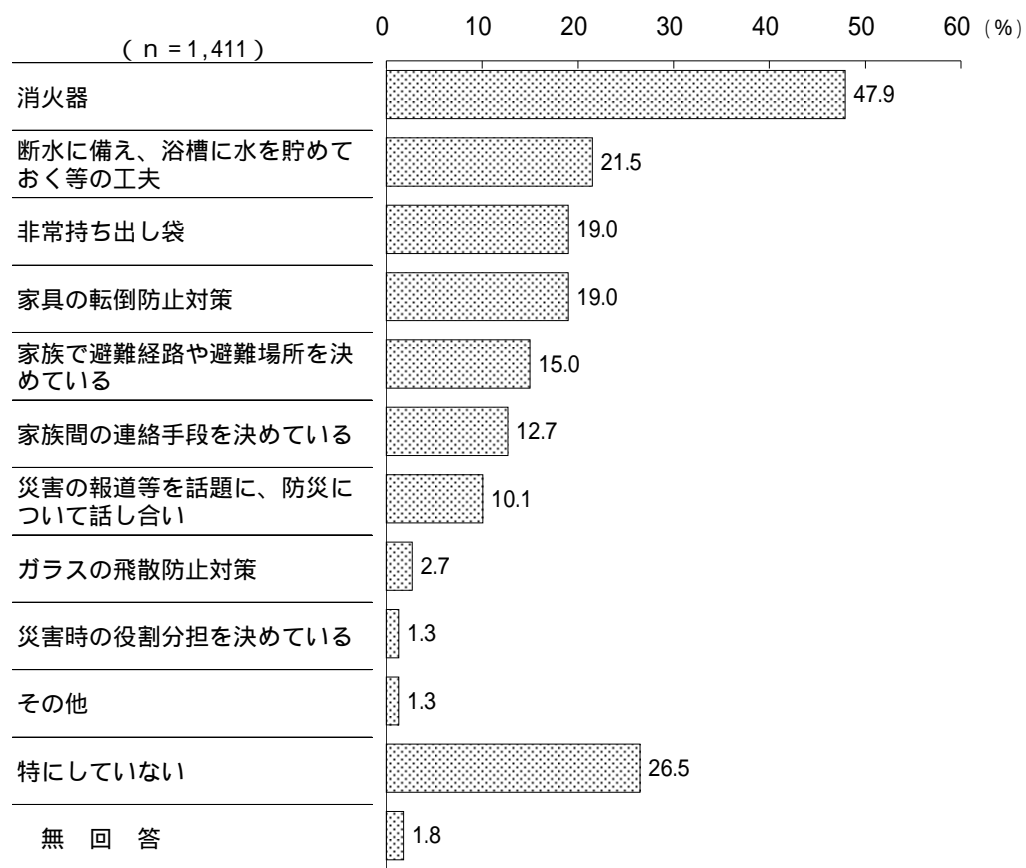
問 10 あなたが、日ごろ最も不安に思う災害はどれですか。次の中から1つを選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「地震」(62.0%)が6割を超え最も高く、次いで「火災」(22.7%)、「風水害」(7.5%)、「雪害」(0.8%)、「火山噴火」(0.1%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「地震」では女性(66.9%)が男性(56.3%)より10.6ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「地震」では女性50歳代が76.1%と最も高くなっている。

(2) 災害に対する備え

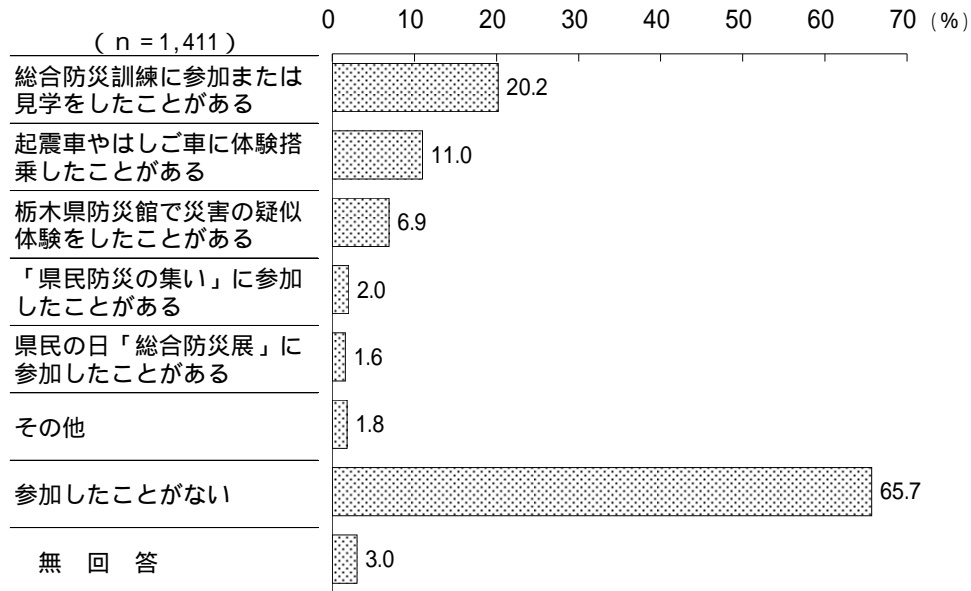
問 11 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつかを選んでください。 [n = 1,411]



- 全体で見ると、「消火器」(47.9%)が5割近くと最も高く、次いで「断水に備え、浴槽に水を貯めておく等の工夫」(21.5%)、「非常持ち出し袋」と「家具の転倒防止対策」(ともに19.0%)の順となっている。また、「特にしていない」が26.5%となっている。

(3) 防災行事への参加状況

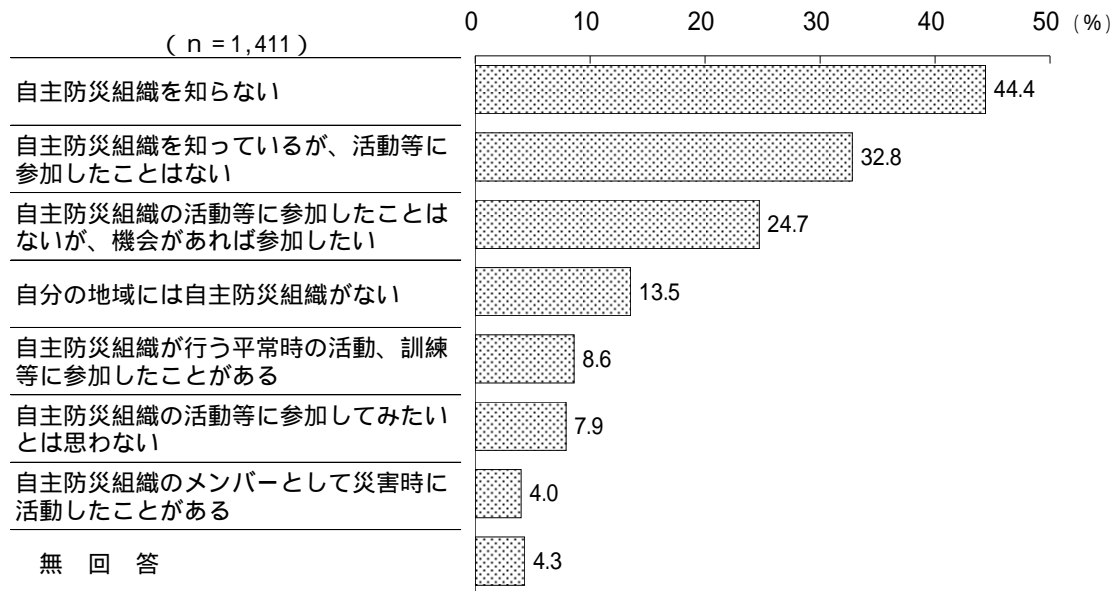
問 12 栃木県では、防災週間等に各種防災行事を行っています。参加したことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「総合防災訓練に参加または見学をしたことがある」(20.2%)が2割と最も高く、次いで「起震車やはしご車に体験搭乗したことがある」(11.0%)、「栃木県防災館で災害の疑似体験をしたことがある」(6.9%)の順となっている。また、「参加したことがない」(65.7%)が6割半ばとなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「総合防災訓練に参加または見学をしたことがある」では女性は高い年代ほど割合が高い傾向となっている。また、「参加したことがない」では女性は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20歳代が80.6%と最も高く、次に男性30歳代が77.6%と高くなっている。

(4) 自主防災組織の認知と意識

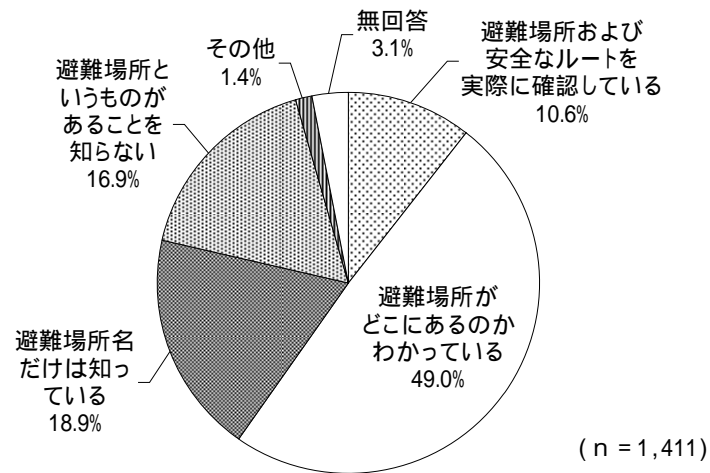
問 13 自主防災組織（自治会・町内会などを母体とした、地域住民が防災活動をする組織）について、次の中から2つまで選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「自主防災組織を知らない」（44.4%）が4割半ばと最も高く、次いで「自主防災組織を知っているが、活動等に参加したことはない」（32.8%）、「自主防災組織の活動等に参加したことはないが、機会があれば参加したい」（24.7%）、「自分の地域には自主防災組織がない」（13.5%）の順となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「自主防災組織を知らない」では男女ともに低い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、女性20歳代が75.8%と最も高く、次に男性20歳代が67.3%と高くなっている。

(5) 指定避難場所の認知度

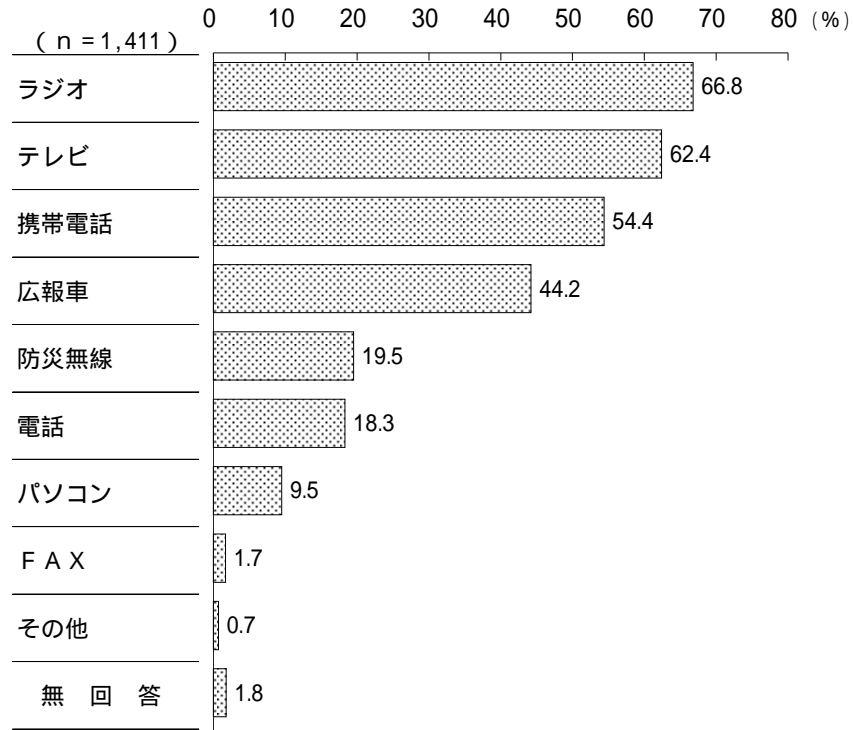
問 14 大規模災害発生時に避難することになる指定避難場所について、どの程度知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「避難場所がどこにあるのかわかっている」(49.0%)がほぼ5割と最も高く、次いで「避難場所名だけは知っている」(18.9%)、「避難場所というものがあることを知らない」(16.9%)、「避難場所および安全なルートを実際に確認している」(10.6%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「避難場所がどこにあるのかわかっている」では 女性 (52.7%) が 男性 (46.7%) より6ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「避難場所および安全なルートを実際に確認している」では 男性70歳以上 が21.5%、「避難場所がどこにあるのかわかっている」では 女性40歳代 (61.4%) と 女性20歳代 (61.3%) がともに6割を超え他の年代と比べて高くなっている。

(6) 有効な緊急時の情報伝達手段

問 15 緊急時の情報伝達手段として、どのような手段が有効であるとお考えですか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,411]

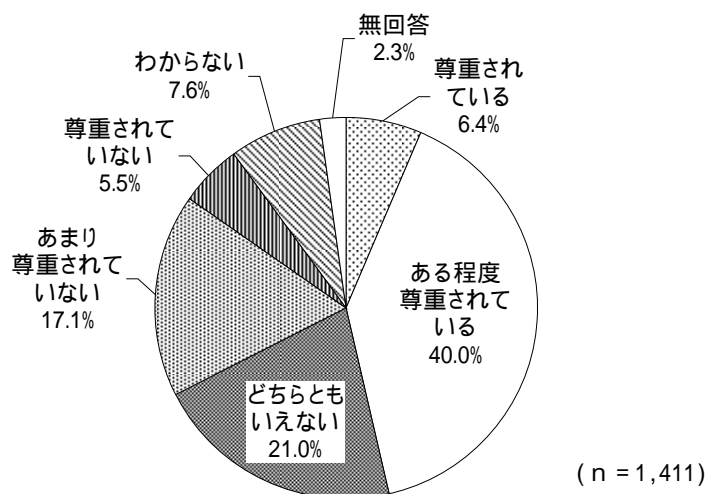


- 全体で見ると、「ラジオ」(66.8%)が7割近くと最も高く、次いで「テレビ」(62.4%)、「携帯電話」(54.4%)、「広報車」(44.2%)の順となっている。
- 性別で見ると、「ラジオ」では男性(70.5%)が女性(64.2%)より6.3ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- 性/年齢別で見ると、「ラジオ」では女性40歳代が80.7%、「テレビ」では男性65~69歳が84.5%、「携帯電話」では女性20歳代(75.8%)と女性30歳代(75.4%)が7割半ば、「広報車」では女性60~64歳が61.4%、「電話」では女性70歳以上が37.7%とそれぞれ他の年代と比べて高くなっている。

7 県民の人権意識について

(1) 基本的人権の尊重

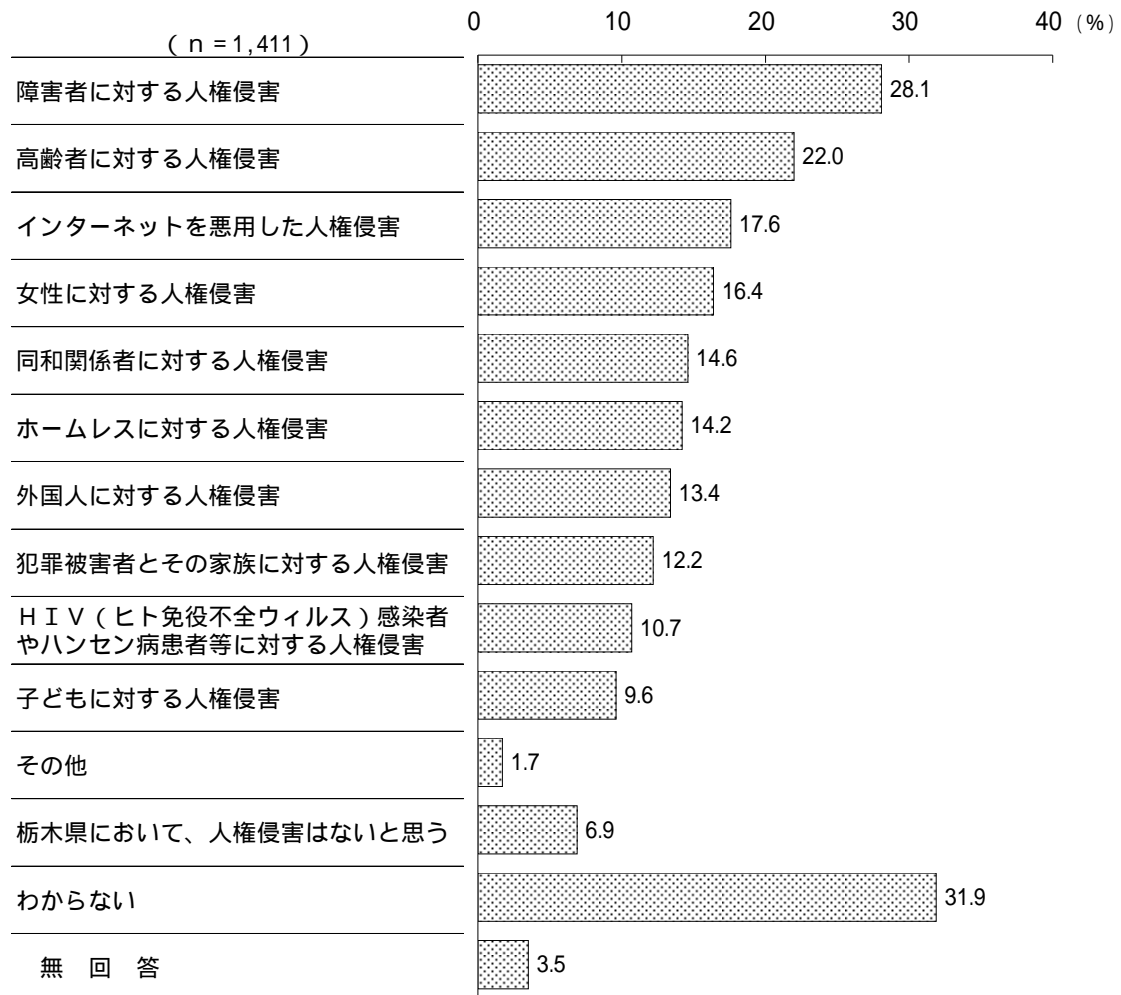
問 16 あなたは「今の日本は、基本的人権が尊重されている社会である」と思いますか。
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「尊重されている」(6.4%)と「ある程度尊重されている」(40.0%)の2つを合わせた『尊重されている』(46.4%)は4割半ばとなっている。一方、「あまり尊重されていない」(17.1%)と「尊重されていない」(5.5%)の2つを合わせた『尊重されていない』(22.6%)は2割を超えている。
- ・ 性別で見ると、『尊重されている』では 男性 (50.0%)が 女性 (43.5%)より 6.5 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、『尊重されている』では 男性70歳以上 が67.8%と最も高くなっている。一方、『尊重されていない』では 男性50歳代 が33.1%と他の年代と比べて高くなっている。

(2) 人権侵害の状況

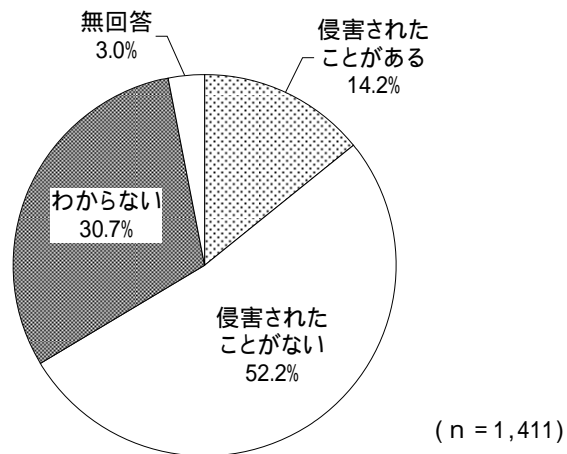
問 17 現在、あなたが栃木県において、あると思う人権侵害（差別など）について、次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「障害者に対する人権侵害」（28.1%）が3割近くと最も高く、次いで「高齢者に対する人権侵害」（22.0%）、「インターネットを悪用した人権侵害」（17.6%）、「女性に対する人権侵害」（16.4%）の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「女性に対する人権侵害」では 女性（18.7%）が 男性（13.6%）より 5.1ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「障害者に対する人権侵害」では 女性20歳代 が 41.9%と最も高くなっている。「高齢者に対する人権侵害」では 女性60～64歳（36.8%）と 男性65～69歳（36.6%）がともに3割半ば以上、「女性に対する人権侵害」では 女性30歳代 と 女性40歳代 がともに 28.9%とそれぞれ他の年代と比べて高くなっている。

(3) 人権侵害の被害経験

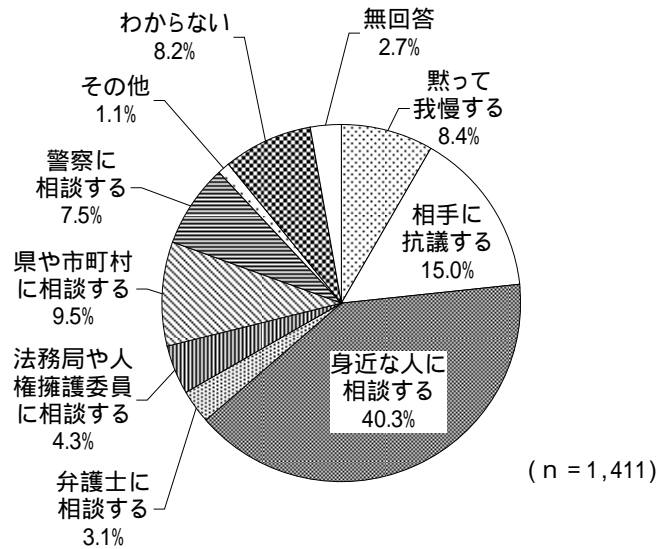
問 18 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「侵害されたことがない」(52.2%)が5割を超え、「侵害されたことがある」(14.2%)が1割半ばとなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「侵害されたことがある」では 男性 20歳代 が25.0%、「侵害されたことがない」では 男性 65~69歳 (62.0%)と 男性 60~64歳 (61.0%)が6割を超え他の年代と比べて高くなっている。

(4) 人権侵害の被害への対処

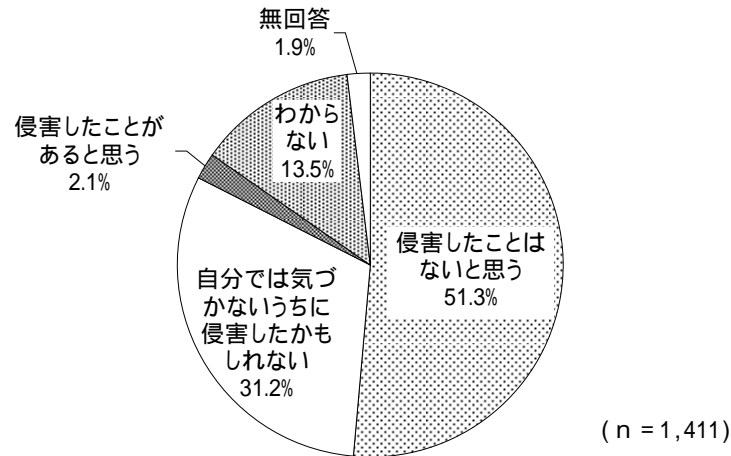
問 19 もし、あなたが、ご自分の人権を侵害された場合、まず初めに、どう対応しますか。
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「身近な人に相談する」(40.3%)が4割と最も高く、次いで「相手に抗議する」(15.0%)、「県や市町村に相談する」(9.5%)、「黙って我慢する」(8.4%)、「警察に相談する」(7.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「身近な人に相談する」では 女性 (49.1%)が 男性 (30.1%)より19ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「身近な人に相談する」では 女性20歳代 が69.4%と最も高くなっている。

(5) 人権侵害の加害経験

問 20 あなたは今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]

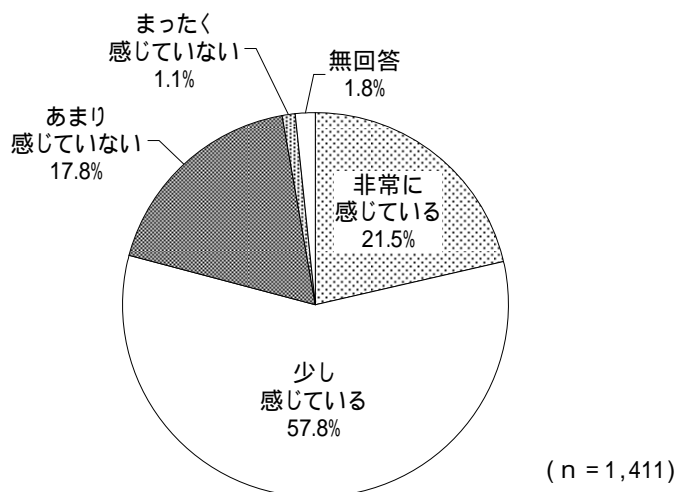


- ・ 全体で見ると、「侵害したことはないと思う」(51.3%)が5割を超え、「自分では気づかないうちに侵害したかもしれない」(31.2%)が3割を超えている。また、「侵害したことがあると思う」(2.1%)は1割未満となっている。
- ・ 性別で見ると、「自分では気づかないうちに侵害したかもしれない」では男性(34.5%)が女性(28.7%)より5.8ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「侵害したことはないと思う」では女性は高い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、女性65~69歳(68.0%)と女性70歳以上(66.4%)が6割半ば以上と他の年代と比べて高くなっている。一方、「自分では気づかないうちに侵害したかもしれない」では女性は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20歳代が43.5%と他の年代と比べて最も高くなっている。

8 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性についての不安

問 21 あなたは食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]

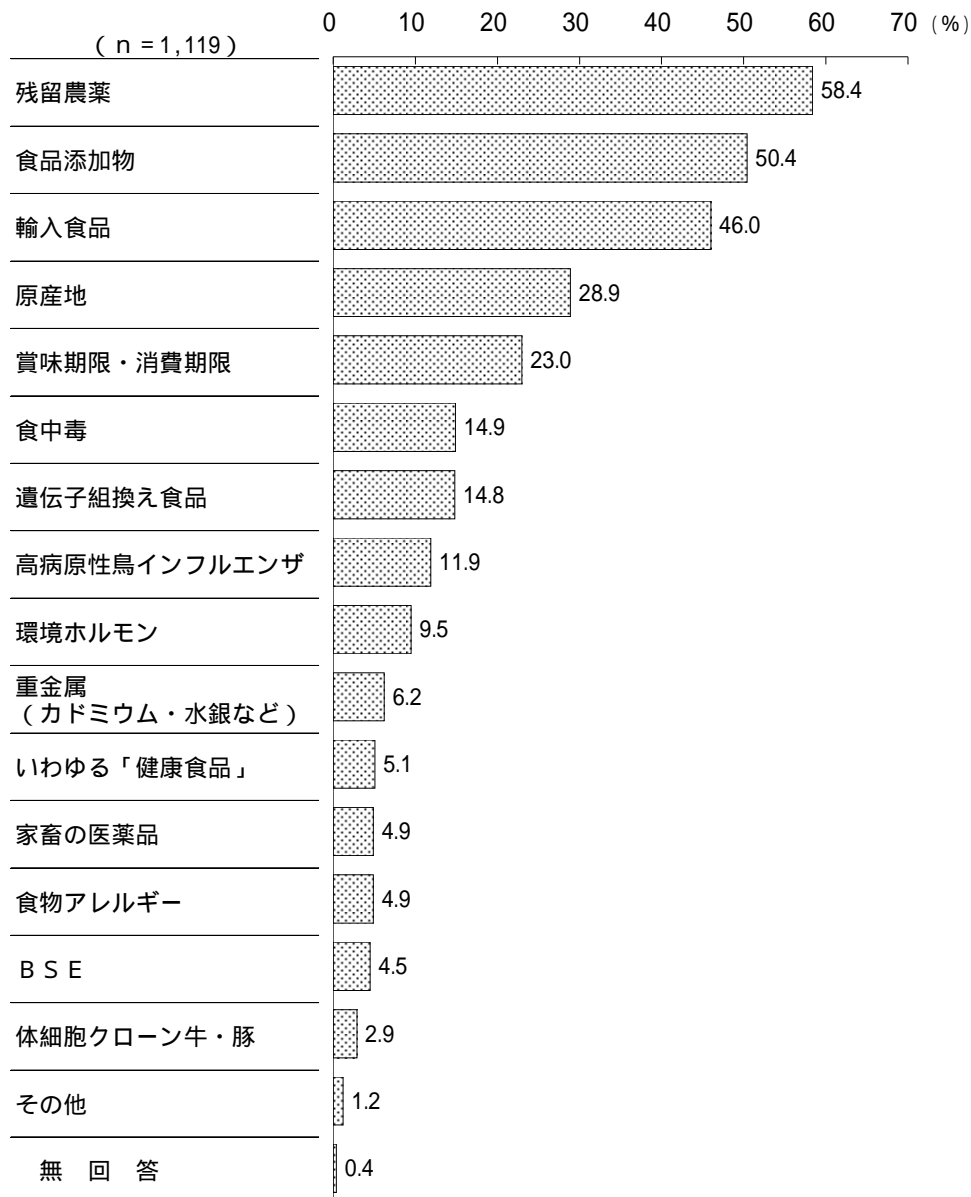


- ・ 全体で見ると、「非常に感じている」(21.5%)と「少し感じている」(57.8%)の2つを合わせた『感じている』(79.3%)はほぼ8割となっている。一方、「あまり感じている」(17.8%)と「まったく感じている」(1.1%)の2つを合わせた『感じている』(18.9%)は2割近くとなっている。
- ・ 性別で見ると、『感じている』では 女性 (83.1%)が 男性 (74.8%)より 8.3 ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、『感じている』では 女性 50 歳代 (89.5%)、女性 40 歳代 (87.7%)、女性 30 歳代 (85.1%)が 8 割半ば以上と高く、『感じている』では 男性 20 歳代 が 30.7%と他の年代と比べて最も高くなっている。

(1 - 1) 感じている食品安全性の不安

(問 21 で「非常に感じている」「少し感じている」を選んだ方のみお答えください)

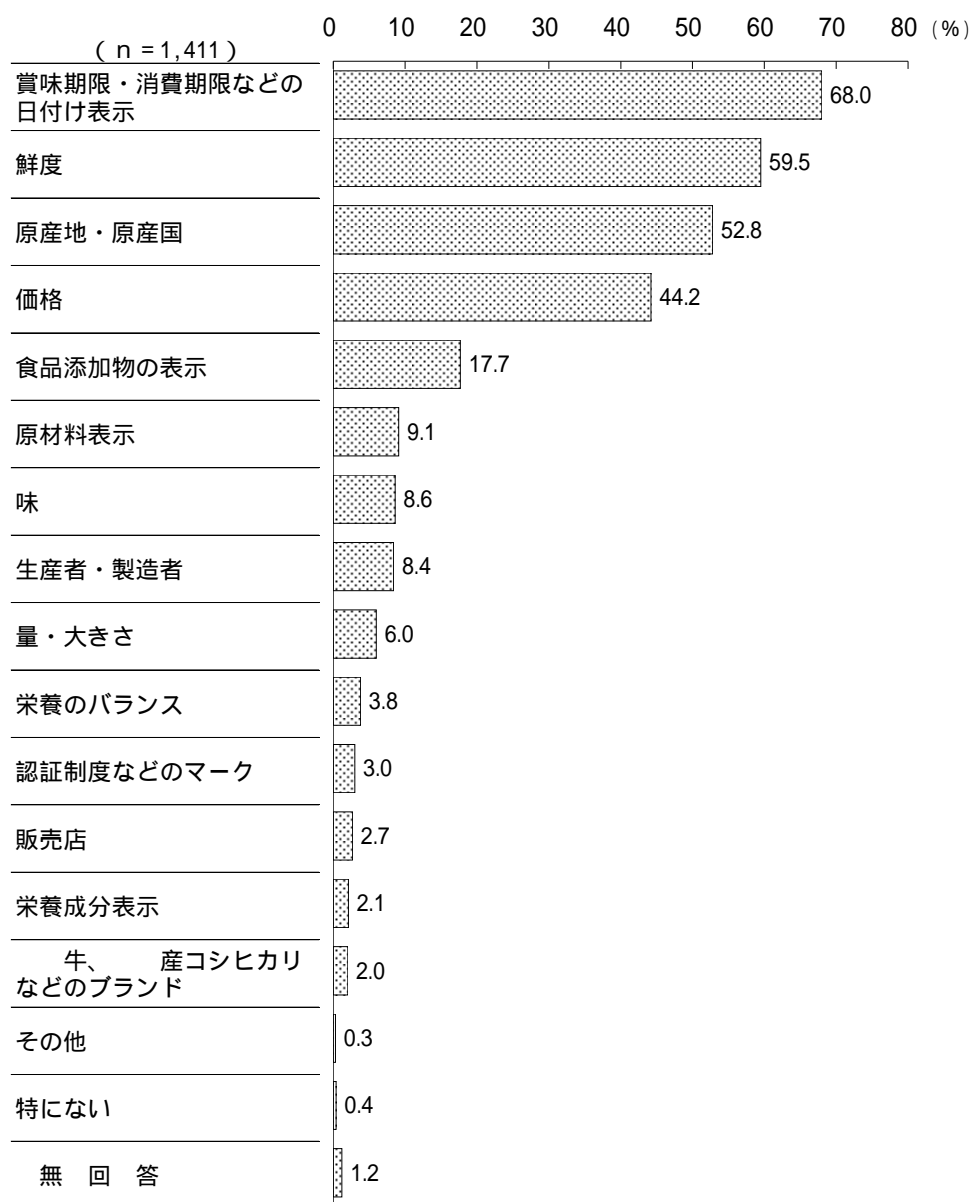
問 21 - 1 あなたは食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。
次の中から 3 つまで選んでください。 [n = 1,119]



- ・ 全体で見ると、「残留農薬」(58.4%)が6割近くと最も高く、次いで「食品添加物」(50.4%)、「輸入食品」(46.0%)、「原産地」(28.9%)、「賞味期限・消費期限」(23.0%)の順となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「残留農薬」では 男性 65～69歳 が66.7%と最も高くなっている。また、「食品添加物」では 女性 65～69歳 が65.0%、「輸入食品」では 女性 40歳代 が57.0%、「原産地」では 男性 30歳代 が44.9%、「賞味期限・消費期限」では 女性 70歳以上 が35.2%とそれぞれ他の年代と比べて最も高くなっている。

(2) 食品購入時に気を付けること

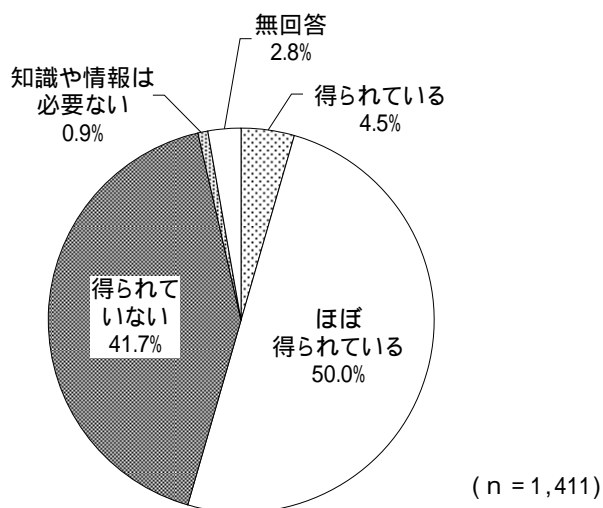
問 22 あなたが食品を購入するときに気を付けることは何ですか。次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」(68.0%)が7割近くと最も高く、次いで「鮮度」(59.5%)、「原産地・原産国」(52.8%)、「価格」(44.2%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「原産地・原産国」では女性(58.8%)が男性(45.8%)より13ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「価格」では男女ともに低い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、男性20歳代が76.9%と最も高くなっている。

(3) 食品の安全性に関する知識や情報の入手

問 23 あなたは、食品の安全性に関する正しい知識や情報を得られていると思いますか。
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]

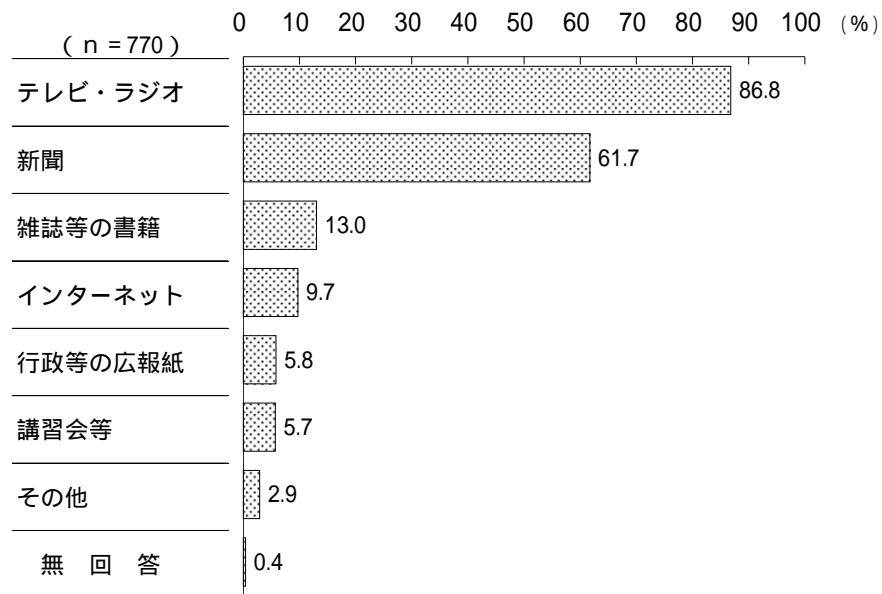


- ・ 全体で見ると、「得られている」(4.5%)と「ほぼ得られている」(50.0%)の2つを合わせた『得られている』(54.5%)は5割半ばとなっている。一方、「得られていない」(41.7%)が4割を超えている。
- ・ 性/年齢別で、『得られている』では 女性 65~69歳 が70.1%と最も高くなっている。一方、「得られていない」では 男性 20歳代 が61.5%と他の年代と比べて最も高く、次に 女性 20歳代 が59.7%と高くなっている。

(3 - 1) 食品の安全性に関する知識や情報の入手先

(問 23 で「得られている」「ほぼ得られている」を選んだ方のみお答えください)

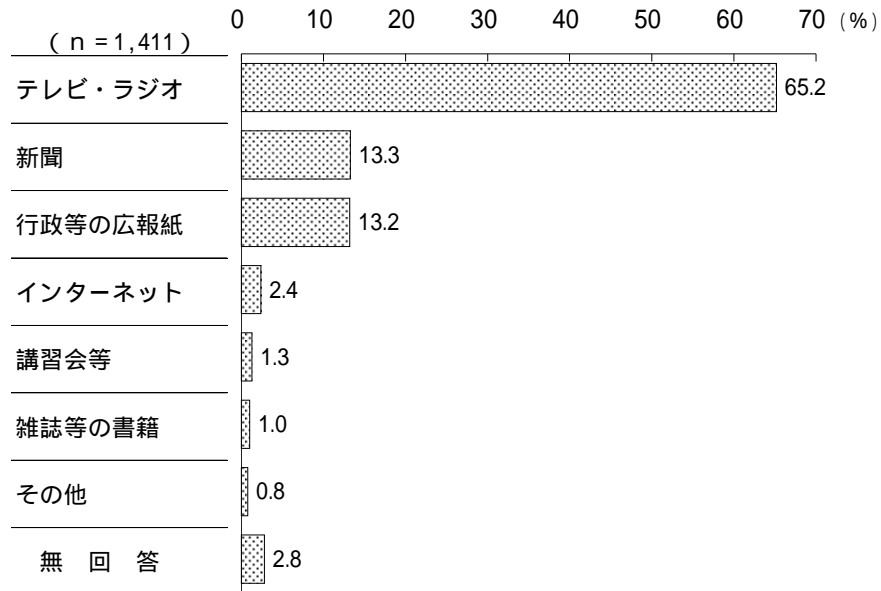
問 23 - 1 あなたは、食品の安全性に関する知識や情報をどこから入手しますか。次の
中から 2 つまで選んでください。 [n = 770]



- ・ 全体で見ると、「テレビ・ラジオ」(86.8%)が9割近くと最も高く、次いで「新聞」(61.7%)が6割を超え、この2項目が特に高くなっている。その他では「雑誌等の書籍」(13.0%)、「インターネット」(9.7%)、「行政等の広報紙」(5.8%)、「講習会等」(5.7%)の順となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「テレビ・ラジオ」では 男性 65～69 歳 (92.5%)、女性 50 歳代 (91.3%)、男性 70 歳以上 (90.6%)が9割を超え、「新聞」では 女性 65～69 歳 (80.9%)、男性 65～69 歳 (80.0%)、男性 70 歳以上 (78.1%)が8割前後、「インターネット」では 男性 30 歳代 (23.4%)、男性 20 歳代 (21.1%)、男性 40 歳代 (20.4%)が2割を超え他の年代と比べて高くなっている。

(4) 食品の安全性で情報提供が必要なメディア

問 24 食品の安全性に関して、どのようなメディアからの情報提供が必要だと思いますか。
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,411]

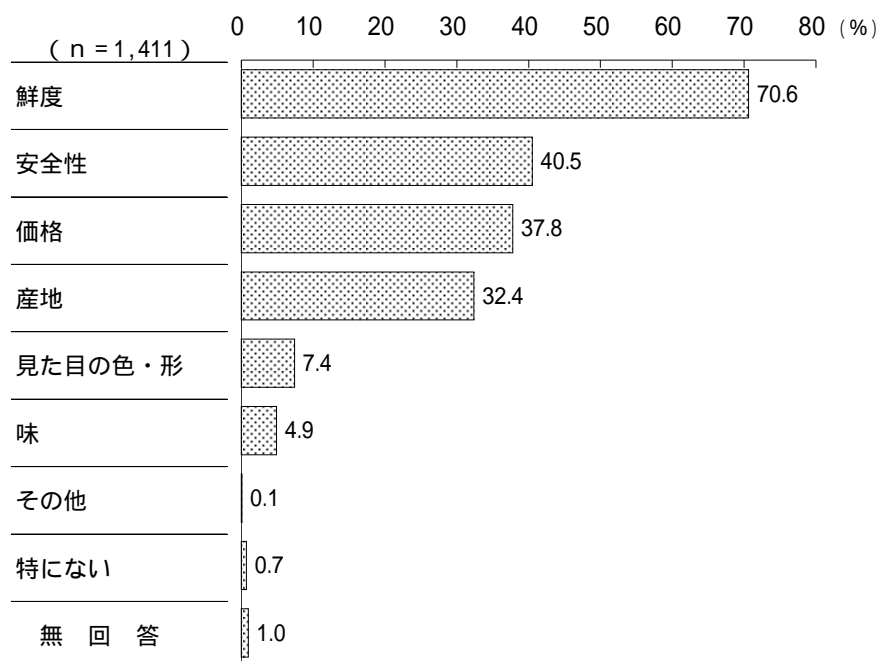


- ・ 全体で見ると、「テレビ・ラジオ」(65.2%)が6割半ばと最も高く、次いで「新聞」(13.3%)、「行政等の広報紙」(13.2%)の順となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「テレビ・ラジオ」では 男性 20 歳代 (75.0%)と 男性 40 歳代 (74.3%)が7割半ば、「新聞」では 男性 70 歳以上 が22.6%と他の年代と比べて高くなっている。

9 食料・農業・農村について

(1) 農産物を選ぶ際に意識していること

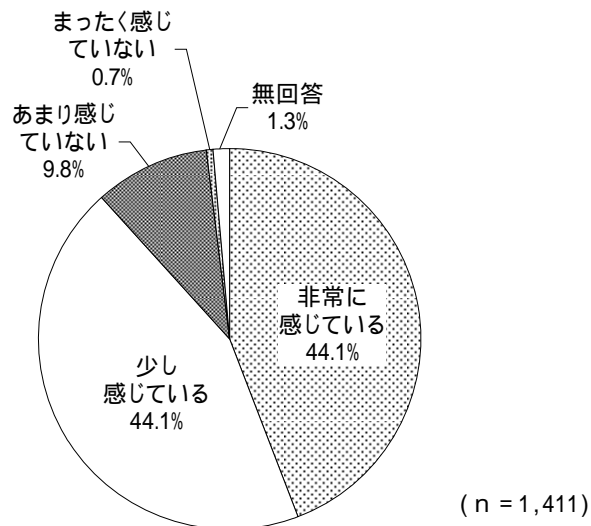
問 25 あなたは、毎日の食生活で利用する農産物を選ぶ場合、どのようなことを意識して選んでいますか。次の中から2つまで選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「鮮度」(70.6%)がほぼ7割と最も高く、次いで「安全性」(40.5%)、「価格」(37.8%)、「産地」(32.4%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「産地」では 女性 (36.2%)が 男性 (28.5%)より7.7ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「鮮度」では 女性65~69歳 (83.5%)と 女性60~64歳 (82.5%)が8割を超え、「安全性」では 女性50歳代 が52.8%と他の年代と比べて高くなっている。また、「価格」では男性は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20歳代 が54.8%、「産地」では 女性30歳代 が44.7%、「見た目の色・形」では 男性20歳代 が23.1%とそれぞれ他の年代と比べて最も高くなっている。

(2) 将来の食料事情についての不安

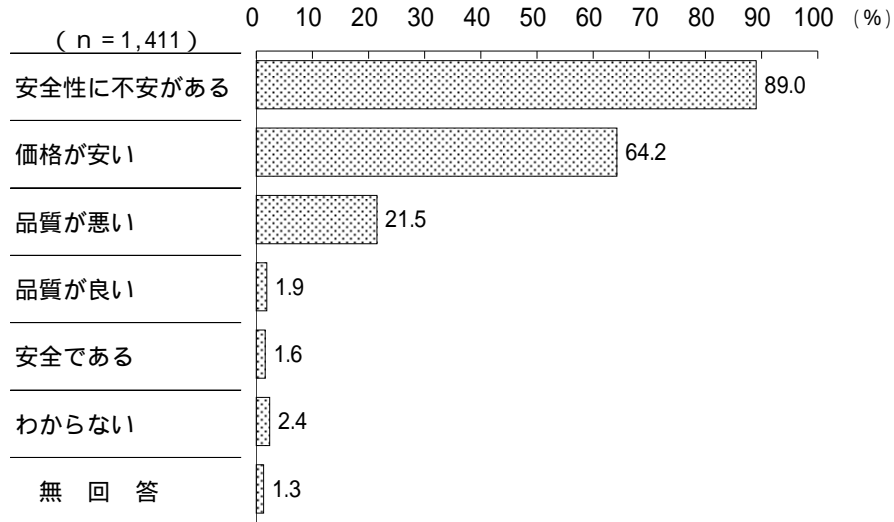
問 26 我が国の食料自給率は現在 40%（平成 19 年供給熱量自給率）と主要先進国の中で最低の水準となっていますが、あなたは我が国の将来の食料事情について、不安を感じていますか。次の中から 1 つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「非常に感じている」（44.1%）と「少し感じている」（44.1%）の 2 つを合わせた『感じている』（88.2%）は 9 割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」（9.8%）と「まったく感じていない」（0.7%）の 2 つを合わせた『感じていない』（10.5%）はほぼ 1 割となっている。
- ・ 性 / 年齢別で見ると、『感じている』では 男性 40 歳以上 と 女性 40 ~ 50 歳代 が 9 割を超えている。一方、『感じていない』では 男性 20 歳代 が 25.0% と他の年代と比べて最も高くなっている。

(3) 輸入農産物に対する意識

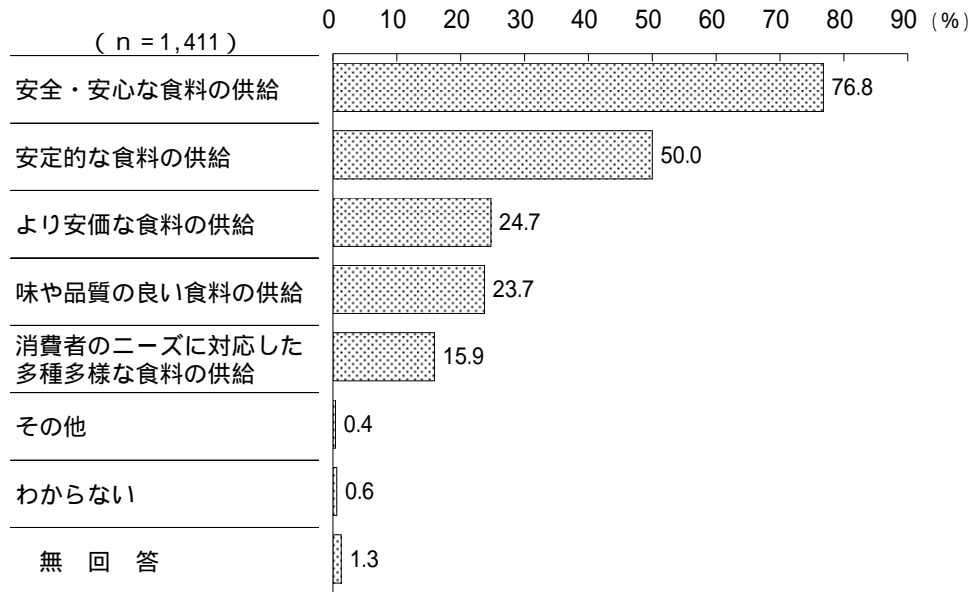
問 27 あなたは、輸入農産物について、どのように思いますか。次の中から2つ選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「安全性に不安がある」(89.0%)がほぼ9割と最も高く、次いで「価格が安い」(64.2%)、「品質が悪い」(21.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「価格が安い」では 男性 (67.1%)が 女性 (61.0%)より 6.1 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「安全性に不安がある」では 男性 50 歳以上 と 女性 30~60 歳代 が 9 割以上となっている。「価格が安い」では 男性 60~64 歳 が 76.6%と他の年代と比べて最も高くなっている。

(4) 国内農業の生産活動に期待すること

問 28 あなたは、国内農業の生産活動（食料の生産）に対して、どのようなことを期待しますか。次の中から2つまで選んでください。 [n = 1,411]

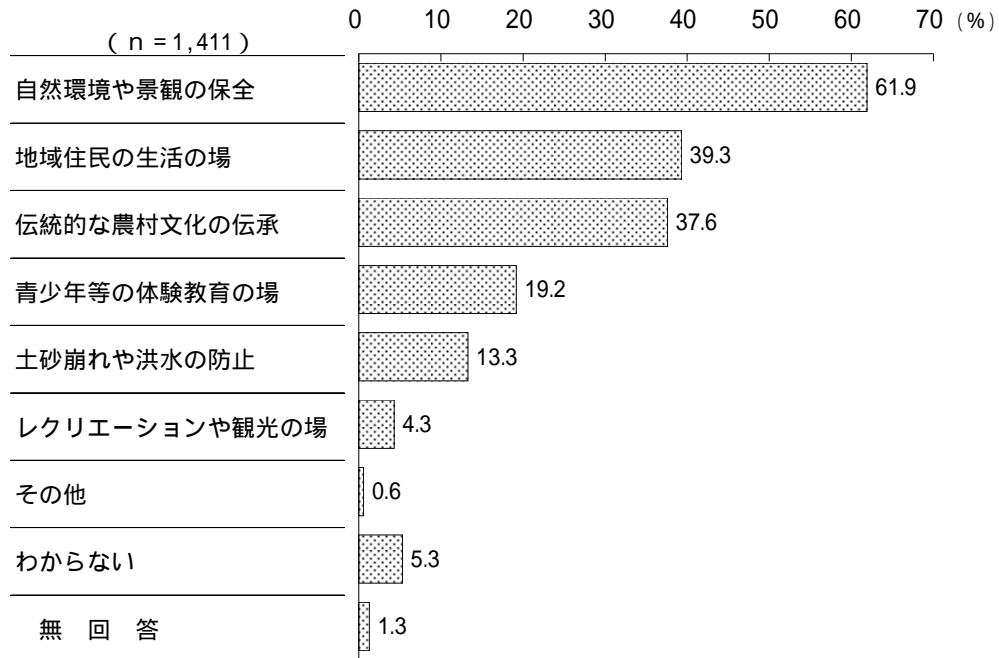


- ・ 全体でみると、「安全・安心な食料の供給」（76.8%）が7割半ば以上と最も高く、次いで「安定的な食料の供給」（50.0%）、「より安価な食料の供給」（24.7%）、「味や品質の良い食料の供給」（23.7%）、「消費者のニーズに対応した多種多様な食料の供給」（15.9%）の順となっている。
- ・ 性別でみると、「安定的な食料の供給」では 男性（56.4%）が 女性（44.7%）より11.7ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で全体平均と比べて差が大きくなるのは、「安定的な食料の供給」の 男性 60～64歳（68.8%）、男性 70歳以上（66.7%）となっている。

(5) 農村の重要な役割

問 29 農村は単に食料を生産するだけでなく、様々な役割を果たしていますが、あなたはどのような役割が重要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

[n = 1,411]

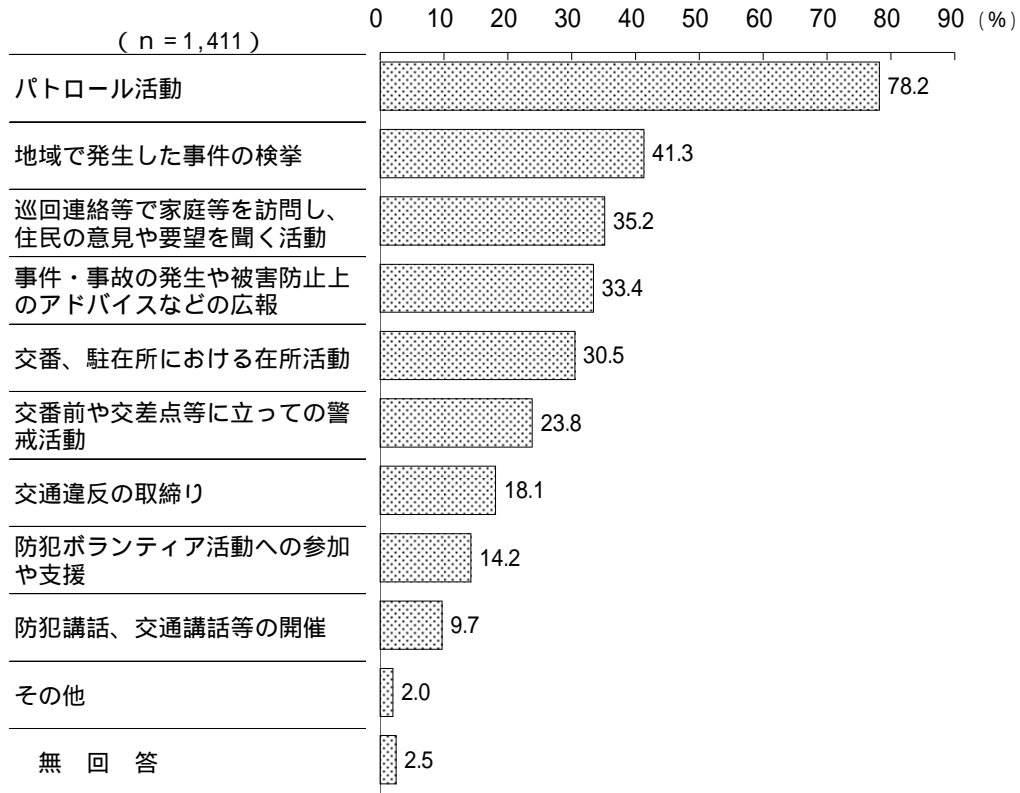


- ・ 全体で見ると、「自然環境や景観の保全」(61.9%)が6割を超え最も高く、次いで「地域住民の生活の場」(39.3%)、「伝統的な農村文化の伝承」(37.6%)、「青少年等の体験教育の場」(19.2%)、「土砂崩れや洪水の防止」(13.3%)、「レクリエーションや観光の場」(4.3%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「青少年等の体験教育の場」では女性(22.5%)が男性(15.5%)より7ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「自然環境や景観の保全」では男性60~64歳(74.0%)と男性50歳代(73.5%)が7割を超え、「地域住民の生活の場」では女性65~69歳が57.7%と他の年代と比べて高くなっている。

10 地域警察活動に対する県民の意識について

(1) 交番等の警察官に特に力を入れてほしい活動

問 30 交番等の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,411]

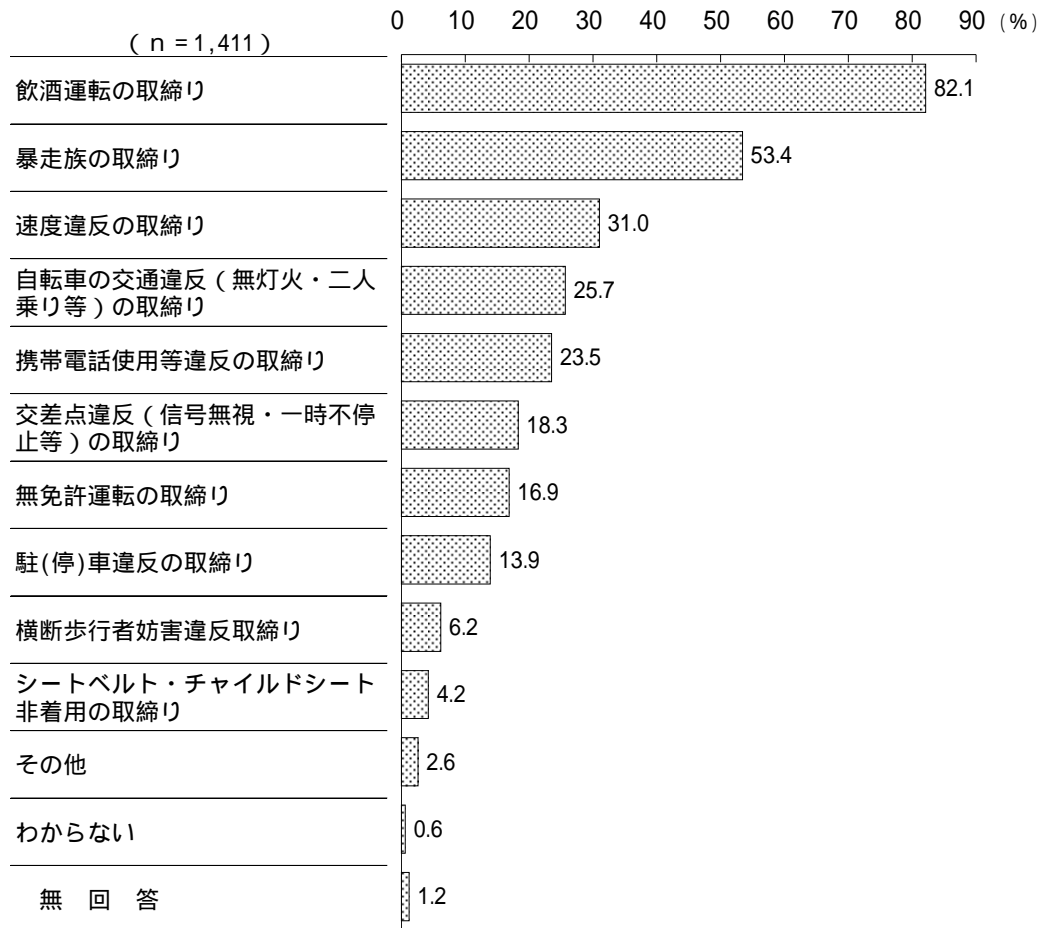


- ・ 全体で見ると、「パトロール活動」(78.2%)が8割近くと最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(41.3%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(35.2%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(33.4%)、「交番、駐在所における在所活動」(30.5%)の順となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「パトロール活動」では 男性 65～69歳 が 87.3%と最も高くなっている。また、「地域で発生した事件の検挙」では 男性 40歳代 と 女性 30歳代 がともに 53.5%と他の年代と比べて最も高くなっている。「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では男女ともに高い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、 男性 70歳以上 が 46.2%と他の年代と比べて最も高くなっている。

11 総合的な交通安全対策の推進について

(1) 交通事故防止のために進めるべき交通取締り

問 31 交通事故を防止するため、あなたはどのような交通取締りを進めるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,411]

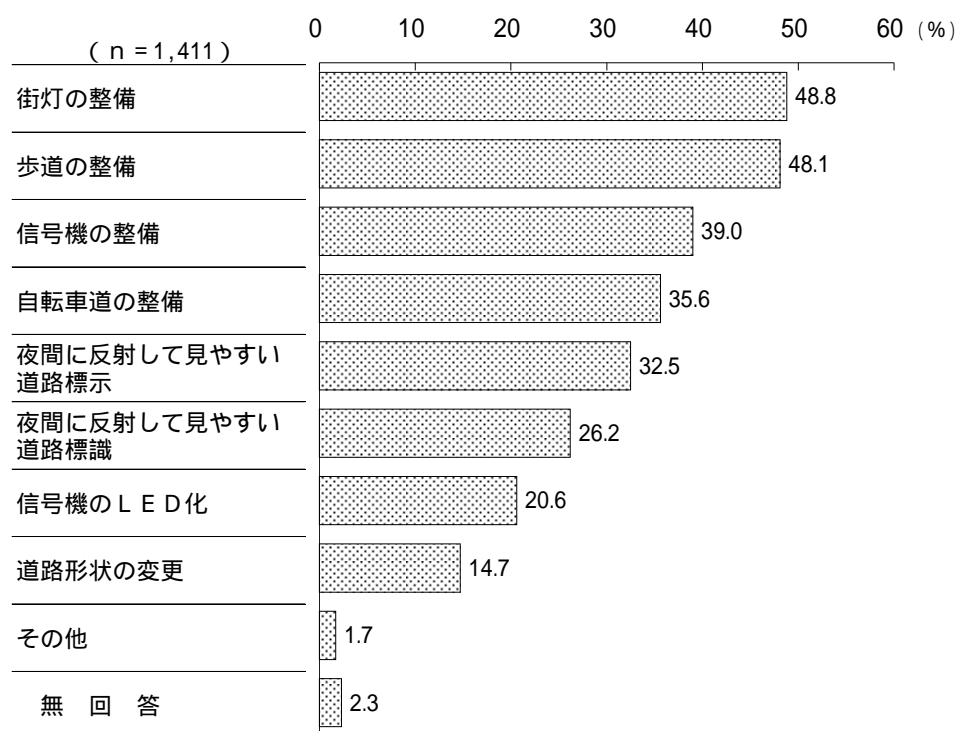


- ・ 全体で見ると、「飲酒運転の取締り」(82.1%)が8割を超え最も高く、次いで「暴走族の取締り」(53.4%)、「速度違反の取締り」(31.0%)、「自転車の交通違反(無灯火・二人乗り等)の取締り」(25.7%)、「携帯電話使用等違反の取締り」(23.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「携帯電話使用等違反の取締り」では 女性 (25.8%)が 男性 (20.7%)より5.1ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「飲酒運転の取締り」では 男性60~64歳 が90.9%と最も高く、「暴走族の取締り」では 男性65~69歳 が63.4%、「速度違反の取締り」では 男性70歳以上 が43.0%と他の年代と比べて最も高くなっている。また、全体平均と比べて差が最も大きくみられるのは、「携帯電話使用等違反の取締り」の 女性65~69歳 (37.1%)となっている。

(2) 事故防止に役立っていると感じる施策

問 32 交通事故を防止するために、各種の交通安全施設の整備を進めていますが、事故防止に役立っていると感じる施策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

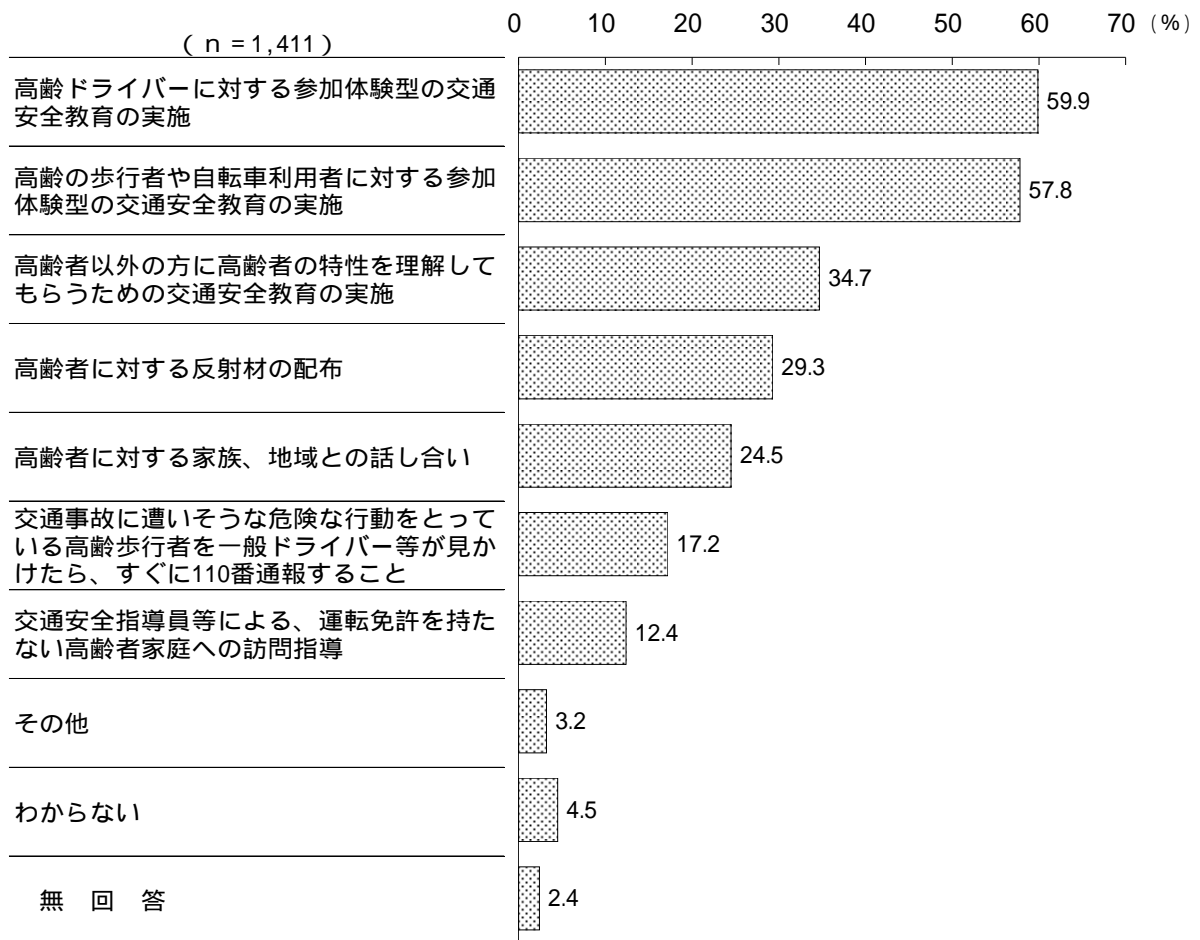
[n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「街灯の整備」(48.8%)が5割近くと最も高く、次いで「歩道の整備」(48.1%)、「信号機の整備」(39.0%)、「自転車道の整備」(35.6%)、「夜間に反射して見やすい道路標示」(32.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「街灯の整備」では女性(51.3%)が男性(45.3%)より6ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「街灯の整備」では男性20歳代(63.5%)と女性70歳以上(63.1%)がともに6割を超え他の年代と比べて高く、「歩道の整備」では男性60~64歳が63.6%と最も高くなっている。「信号機の整備」では男性65~69歳(53.5%)と女性70歳以上(50.8%)がともに5割を超え、「夜間に反射して見やすい道路標示」では女性65~69歳が48.5%とそれぞれ他の年代と比べて高くなっている。

(3) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問 33 高齢者の交通事故が増えていますが、高齢者の事故を防止するために何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,411]



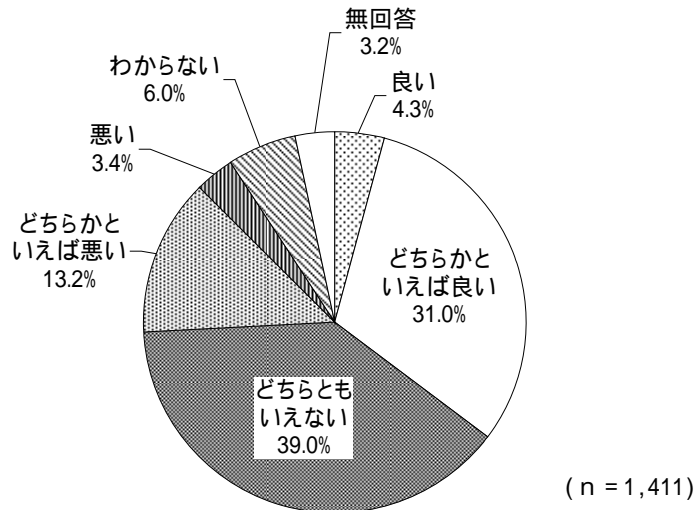
- ・ 全体で見ると、「高齢ドライバーに対する参加体験型の交通安全教育の実施」(59.9%)が6割と最も高く、次いで「高齢の歩行者や自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(57.8%)、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」(34.7%)、「高齢者に対する反射材の配布」(29.3%)、「高齢者に対する家族、地域との話し合い」(24.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「高齢者に対する反射材の配布」では 女性 (32.8%) が 男性 (25.4%) より7.4ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「高齢ドライバーに対する参加体験型の交通安全教育の実施」では 女性20歳代 が71.0%と最も高くなっている。

12 犯罪と治安対策について

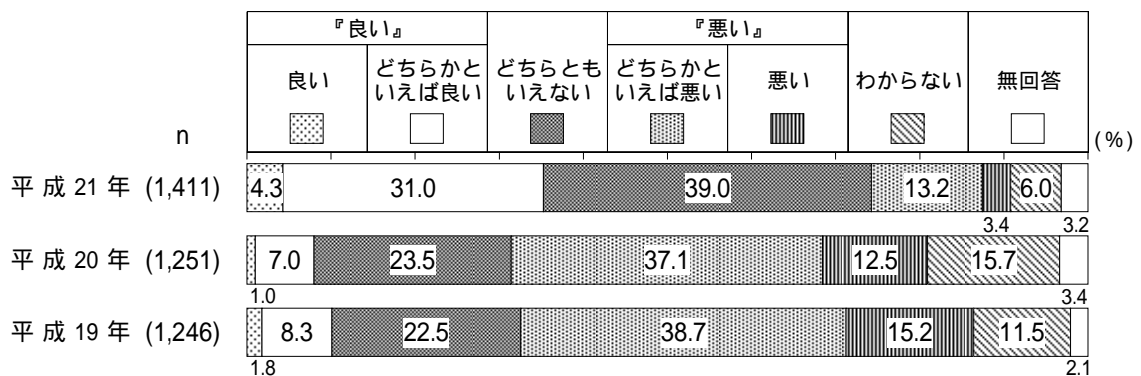
(1) 県内の治安状況

問 34 県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「良い」(4.3%)と「どちらかといえば良い」(31.0%)の2つを合わせた『良い』(35.3%)は3割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」(13.2%)と「悪い」(3.4%)の2つを合わせた『悪い』(16.6%)は2割近くとなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、『良い』では 女性40歳代(43.9%)と男性70歳以上(43.0%)がともに4割を超え他の年代と比べて高くなっている。

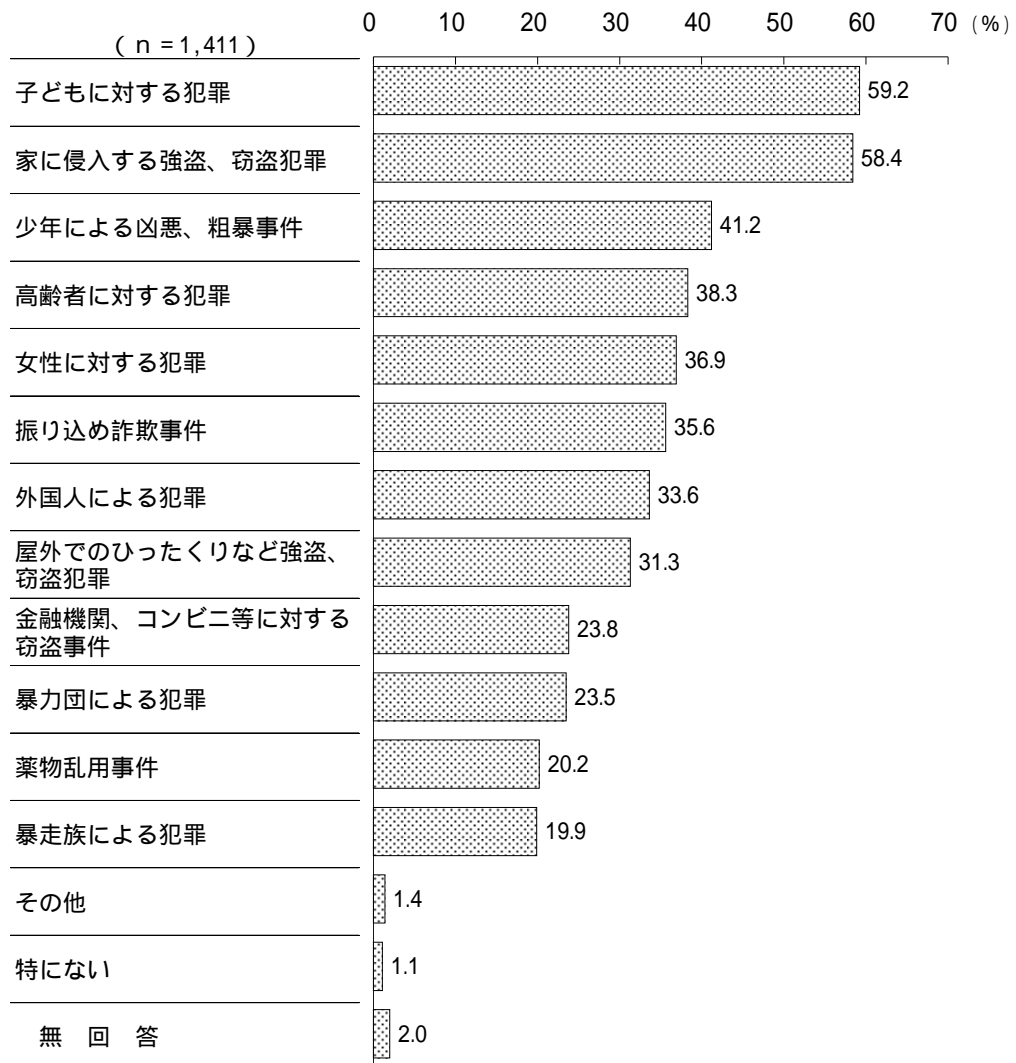


- ・ 過去の調査結果とは選択肢が異なっているので単純には比較できないが、前回(平成20年)より『良い』が27.3ポイント増加している。

(2) 不安を感じる犯罪

問 35 どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

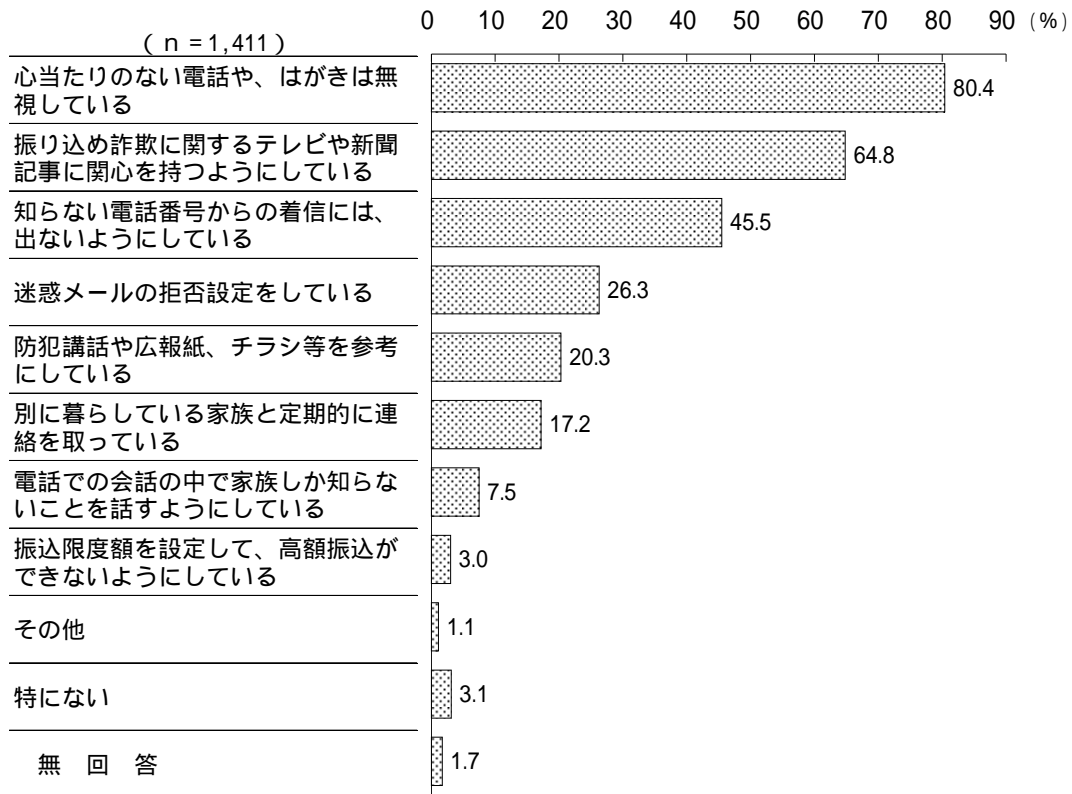
[n = 1,411]



- ・ 全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(59.2%)がほぼ6割と最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(58.4%)、「少年による凶悪、粗暴事件」(41.2%)、「高齢者に対する犯罪」(38.3%)、「女性に対する犯罪」(36.9%)、「振り込み詐欺事件」(35.6%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「女性に対する犯罪」では女性(41.3%)が男性(31.7%)より9.6ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では女性30歳代が80.7%と最も高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では男女とも高い年代ほど比較的割合が高い傾向にあり、女性70歳以上が62.3%と他の年代と比べて最も高くなっている。一方、「女性に対する犯罪」では女性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20歳代が58.1%と他の年代と比べて最も高くなっている。

(3) 振り込め詐欺の被害防止についての心掛け

問 36 振り込め詐欺の被害防止について、どのようなことを心掛けていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,411]



- ・ 全体でみると、「心当たりのない電話や、はがきは無視している」(80.4%)が8割と最も高く、次いで「振り込め詐欺に関するテレビや新聞記事に関心を持つようにしている」(64.8%)、「知らない電話番号からの着信には、出ないようにしている」(45.5%)、「迷惑メールの拒否設定をしている」(26.3%)、「防犯講話や広報紙、チラシ等を参考にしている」(20.3%)、「別に暮らしている家族と定期的に連絡を取っている」(17.2%)の順となっている。
- ・ 性別でみると、「振り込め詐欺に関するテレビや新聞記事に関心を持つようにしている」では女性(68.3%)が男性(60.8%)より7.5ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別でみると、「振り込め詐欺に関するテレビや新聞記事に関心を持つようにしている」では女性50歳代が77.9%、「知らない電話番号からの着信には、出ないようにしている」では女性20歳代が62.9%、「迷惑メールの拒否設定をしている」では女性30歳代が46.5%とそれぞれ他の年代と比べて最も高くなっている。

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成21年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市埜田 1 - 1 - 20

電話 (028) 623 - 2158